

県病薬やまがた 広報誌



Yamagata Hospital Pharmacist meeting

- 卷頭言
- 受賞にあたって
- 施設紹介
- 新人紹介
- 活動報告
- 会員報告
- 総会報告・委員会報告
- 会員名簿
- 賛助会員名簿
- 定款

理事 大川 賢明



表紙写真：「小国町より飯豊連峰を望む」
撮影写真提供：高橋 宏



卷頭言

『県病薬やまがた広報誌』No.35 発刊によせて

一般社団法人 山形県病院薬剤師会

理事 大川 賢明

およそ卷頭言というものは格式や権威を有する方の有り難い話という印象が拭えないが、私のようなものが依頼されるに当たって些か困惑する。県病院薬剤師会の一介の理事が、気が付くと現在の理事で最も長い任期を経ているという事に気付かされ今さらながら驚いた。然したる功績を残したわけでもないまま長くその場に関わらせていただいただけだが、振り返ればこの環境であったからこそ悩み、考え、そして動いてみて非常に多くを経験させてもらった。歳月は流れ且つての様なスタミナも少なくなってきたが、この機会にただの振り返りを語るより、実体験して感じたことやその側面から見聞きしてきた様々な部分も含めて思うところを述べてみたい。

過去の資料によれば、元号が平成となった当県の院外調剤の発行率は3.7%という記録がある。その後国の方針、並びに先達らの御助力により世の方向が分業化に進み、病院では入院患者とベッドサイドで面談する「薬剤管理指導」を、処方薬は院外調剤薬局で指導を受けて入手するという構図が欧米にならったスタイルとして評価され普及が加速していった。ただこの「分業」が確立化してくると、今度は商業的因素も含めた患者の獲得競争、加算を得るための基準薬局を目指す過程で種々の問題が散見し業界が騒がしくなったこともあったのは、甚だ残念な「負」の要素だったことも現実として感じていた。

医療体制に関する制度も変遷が繰り返され、今や急性期や療養、回復期等の病床群のすみ分けが明確化され、個々の医療機関での業務も変動してきたのは周知のとおりである。私が入職し現在に至っている本院は、地域柄急性期・慢性期・回復期リハ・地域包括ケア病床群を有するケアミックス病院として存在しているが、開院からこの構図は基本的には変わっていない。その様な勤務環境であったことが要因だったのか、県病薬より中小病院、療養、地域連携等に関連する担当を任せられ、また東北病薬の部門にも長く関わらせてもらった。そこで他県の同胞らと言葉を交わす機会を得て、自分達だけ

はない苦悩を共に語り合えたことで大きな活力を感じたものだった。

現実的に申せば、病院運営の一端を担う我々にとっての生命線は病院の個性を生かしてプラスを産む要素を模索する事が大きな課題としてある。国はDPC制度の導入や、後発品の使用推進に加算を加える等を段階的に進めてきて、そして本年より「選定療養」が開始となる。政治的なことはともかく、この様な政策が実施されるたびに我々医療者側は対応に追われる。果たしてそれが患者に本当に喜ばしい事か否か葛藤を感じながら対応に追われるという事を繰り返し、迷いながら業務に延々向かい合ってきたのが現実だったのは私だけではあるまい。

また殆どの病院が頭を悩ませている要因の筆頭は、やはり薬剤師の偏在、人員不足に相違無い。殊に中小規模の病院での状況は極めて厳しく、あらゆる手を尽くしても成果になかなか結び付かないという現状はもはや危機的でもあった。近年、会長を筆頭とする県病薬の努力もあり、行政を絡めた薬学部設置運動や奨学金支援制度等が動き出し、期待をもてる事が徐々に増えて来ているのは光明といえよう。未来の優れた薬剤師を育てる土壌に繋がっていくと期待できる。

つらつらと思うままに筆を運んでみたが、振り返れば、実務実習という制度もない時代に、自分にとって学んだことが最大限に生かせるのは「臨床」ではないかと、右も左も分からぬまま病院という現場に転職して飛び込んだ。その時から今に至り続けてこれたという事は、決して安樂ではなかったがどれだけ幸せだったか感じて止まない。何故かと言わればうまく説明できないが、自分のような小さき人間が常に緊張感のある環境で世の役に立っているかもという淡い思いに、むしろ安堵を感じていたからといつてもいいかもしれない。

現役でいれるのもそう長くは無いが、最後には「老兵は死なず　ただ消え行くのみ」の境地で全うしたい。そして次の世代の精銳がさらに山形県の病院薬事を発展させてくれることを強く期待して、拙い文を終わらせることとする。

令和5年度日本病院薬剤師会功労賞 受賞にあたって



三友堂病院

大石 玲児

昨年5月、日本病院薬剤師会より功労賞をいただきました。この度、功労賞をいただけましたことは望外の喜びであり大変光栄に存じます。たまたま山形県病院薬剤師会理事として長い期間活動を行ってきたことが評価されたものと思います。

これもみなすべて、諸先輩方や縁あって関わっていただいた各先生方、同僚・後輩、友人や家族等から教えられ、また自分で学び取ったこれまでの過程の結果の賜物と思っております。

今までの私に関わっていただいたすべての方々に紙面をお借りして感謝申し上げます。

ひとりの人間として、また医療人(薬剤師)としての専門的な知識、技術、態度を習得し、人間性を高め、社会から求められる人間となっていくことこそ、自身に与えられた使命であると考えます。患者・家族、社会を支える職能集団の一員として、他の職種とチームを組んでお互いに向上していくことを目指してさらに精進していく所存です。

人の「いのち」に関わる専門職として、何をするべきかをしっかりとと考え行動をしていきたいと思います。ありがとうございました。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

山形県病院薬剤師会と会員の皆様方のますますのご活躍を祈念しております。

令和5年度保健衛生関係功労者山形県知事表彰 受賞にあたって



篠田総合病院

薬局長 **伊藤 秀悦**

令和5年11月県庁にて保健衛生関係功労者山形県知事表彰を拝受致しました。今までご指導頂きました諸先輩方をはじめ、公私共に親交のある先生全ての方々に心より感謝申し上げます。

平成元年4月篠田総合病院入職以来病院薬剤師として研鑽をかさねてきましたが、まだまだ未熟であり知識も浅い為、今後も努力が必要と思っています。その様な私でも拝受できたのは、「継続は力なり」「無事これ名馬」の実証と思っております。今後受賞の対象となられる先生方へ、「あの人でも貰えるのであれば、私も少し頑張れば必ず貰える」と思って貰い病院薬剤師として励みの材料の1つになれれば幸いです。

恩返しではありませんが、後進の先生方へ今迄の経験を少しでも伝えられれば嬉しいと思っています。残り少ない病院薬剤師としての人生になりますが、今迄同様のご指導とご鞭撻をお願い致します。

令和5年度薬事功労者山形県知事感謝状 受賞にあたって



山形県病院薬剤師会
元理事 松田 隆史

この度は、薬事功労者山形県知事感謝状を賜り、誠にありがとうございました。ご推薦頂きました山形県病院薬剤師会会长 山口浩明先生をはじめ皆様方に感謝申し上げます。

はじめに受賞のお話を頂いたとき、自分は“知事感謝状”を頂くような事を成し遂げてきたのだろうか。本当にもらつていいのだろうか。と自問自答しながらも、しっかり快諾している私でした。

私は、大学を卒業し当時の長井市立総合病院に就職してから、公立置賜総合病院で退職を迎えるまで38年間という長きにわたり、なんとか病院薬剤師として無事に最後まで勤めることができました。これもひとえに多くの方々に見守られ支えて頂いた賜物だと感謝しております。そして病院薬剤師としての締めくくりに、名誉な感謝状を頂けたことは私にとって本当に光栄なことであり、この上ない喜びでございます。

今後は、今回の受賞を自分の糧として、薬剤師として新たな気持ちで、薬物治療を必要とする患者様のため、少しでもお役に立てるよう尽力していきたいと思っております。

結びになりますが、山形県病院薬剤師会の今後益々のご発展と皆様方のご活躍をお祈り申し上げます。

令和6年度永年会員表彰を受賞して

鶴岡協立病院

薬剤科 齋藤 尚子

この度は、永年会員という栄誉ある表彰を頂き身に余る光栄でございます。私が今まで勤めさせていただきましたのも、ひとえに山形県病院薬剤師部会の皆さまのお力添えがあればこそでございまして、この様な晴れがましい表彰をいただけましたのも皆さま方のおかげであると感謝いたしております。

この約30年を振り返ってみると、4年制の薬学部を卒業し、ここ庄内の地の病院に在籍させていただいたあの頃が本当に遠い昔のこと、記憶もおぼろげに思い出すことも困難な今日この頃でございます。周りを見渡せば豊富な知識を携えて、常に向上心をもって業務に向き合われている薬剤師の方々の素晴らしいご活躍を目の当たりにいたしまして、今後私に何が出来るものか、日々考えを巡らすこの頃でございます。私微力ではありますがこの度の名誉に報いるためにも、さらにたゆまぬ努力を致す所在でございます。

いつそうのご指導ご援助を贈りますようお願い申し上げます。

令和6年度永年会員表彰を受賞して



三友堂病院

相馬 直記

このたびは、一般社団法人山形県病院薬剤師会の永年会員として表彰していただき、これまでにご指導賜りました多くの先生方に篤く御礼申し上げます。

私は平成10年に初めて本会に加わり、病院薬剤師の使命感とともに自分が一人前に職務を果たせるのであろうかという思いを抱きながら、多くの学びと成長を遂げて参りました。この道のりは、皆様のご支援とご協力があったからこそ、無事に歩んでこれたと思っています。振り返れば、三友堂一筋で参りましたが幸運にも3つの病院を経験でき、貴重な経験がありました。おかげさまで、医学薬学の見識を深めるのみならず本会の運営に携わる機会にも恵まれ、病院薬剤師として故郷の医療に携わることに喜びを感じております。今後も引き続き、より一層の努力を重ね、皆様と共に本会の発展および山形県の医療に貢献していく所存です。これからも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年度永年会員表彰を受賞して



最上町立最上病院

主任 結城 智博

この度は永年表彰を頂くことができ、誠に光栄に思います。ご指導いただいた諸先輩方やお世話になった皆様に、深く感謝申し上げます。

振り返ると、就職した頃は外来処方の調剤が主な業務でしたが、院外処方の発行や電子カルテの導入など業務内容が大きく変化してきたことを感じております。

現在、病床数60床、1人薬剤師で20年くらいになります。できる業務も多くないのですがそれなりにやりがいがあることを実感しております。

これは他の職種のみなさんに支えられている部分が大きいのですが、知識いかした仕事ができる薬剤師という職種ならではのやりがいなのかとも感じております。自身の知識は十分ではありませんが今後も積み重ねていければと思います。

今後も地域医療に貢献できるよう努めて参りますのでご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

第3回山形県病院薬剤師会学術大会

最優秀発表賞



日本海総合病院
薬剤部 石川 大介

この度、第3回山形県病院薬剤師会学術大会において、最優秀発表賞をいただきまして誠にありがとうございます。

今回発表させていただいた「外来化学療法時間短縮への取り組み」については、外来化学療法室の投与時間短縮に対しプロトコルに基づき実施できるよう各方面から同意をいただき、従前の方より医師、看護師、薬剤師それぞれの負担を減らした取り組みの発表でした。

さて皆様、普段行っている業務に疑問を持ったり、成果が出ているのかと感じたりすることはないでしょうか？ぜひ発表してみましょう。「構成を考え、スライドにし、発表原稿を考え、発表する」という普段味わえない経験がきっと皆様を一段上へステップアップさせてくれます。

偉そうなことを言っていますが、私もこれで終わりではありません。医療の中で切磋琢磨し変化を生み出そうとしている同じ職場の、県内の、全国の薬剤師に負けないよう薬剤師としてこれからも日々精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和5年度優秀論文賞 最優秀論文賞



山形大学医学部附属病院
薬剤部 **志田 敏宏**

この度、最優秀論文賞を受賞することができ、大変光栄に感じております。今回の論文のテーマである薬剤経済学は、薬剤の効果や経済性を統合的に分析し、医療資源の最適な活用を目指す学問です。特に海外ではこの分野の研究が進み、保険償還の判断材料としても重要視されています。しかし、日本ではまだ発展途上であり、医療現場や政策決定への影響も限定的です。私の研究が、日本における薬剤経済学の普及と発展に少しでも寄与できることを願っております。

今後も研究を続け、仲間と協力しながら、この分野がさらに発展し、医療の質の向上と効率化に貢献できるよう努めたいと考えています。

令和5年度優秀論文賞 優秀論文賞



山形市立病院済生館

菅原 拓也

この度、優秀論文賞という栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。

本論文“吸入指導用吸気流速測定器をIn-CheckからIn-Check DIALに切り替える際の留意点”は、吸気流速器の採用を切り替える際、「測定値は以前と同じなのか?」、「新しい吸気流速器は6パターンの抵抗しかないが、同じ抵抗区分の吸入デバイスは同じ値になるのか?」などの臨床疑問から始めた研究でした。結果、相関性はあるものの抵抗の大きさによって1：1で換算できるわけではないことや同じ抵抗区分の吸入デバイスでも回帰直線の傾きは異なることが分かり、切り替える際の留意点を示すことができました。本研究が成功したのも試験に参加してくださった当院薬局員や共同演者の方々のご協力のおかげであり、感謝申し上げます。

今後も臨床疑問に対するエビデンスを構築できるよう日々精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

施設紹介

山形県立新庄病院

所属長より



県立新庄病院が所在する最上地域は、少子高齢化に伴う人口の減少、医療従事者の不足など、医療を取り巻く環境が県下で最も厳しい地域です。当院薬剤師も3分の2が他地域からの通勤です。風雨を気にしながら、協力して業務にあたっています。

病院の基本理念である「仁・愛・和」をもって、地域住民へ「安全、安心、信頼の医療」を提供できるよう取り組んでいきたいと思います。

薬局長 庄司 喜恵

薬剤部門概要

- 薬剤師数 14名(男6名、女8名)
- 補助員数 6名

[2023年度実績]

- 1日平均処方箋枚数 外来：264.6枚 入院：77.2枚
- 院外処方箋発行率 95.7%
- 1月平均抗悪性腫瘍薬調製件数 263.8件
- 1月平均薬剤管理指導件数 331.5件
- 病棟薬剤業務 2024年9月まで実施



薬剤部門の業務紹介

怒涛の引っ越し作業の末、令和5年10月1日新病院開院に至りました。開院後も業務の流れを整える作業が続きました。旧病院と比較して改善された点も、そうでない点もありますが、一部ご紹介いたします。

お薬渡し窓口が1F、調剤室が2Fと離れてしまったため、1Fにも人員を配置する必要が生じました。ただし、1Fお薬渡し窓口裏の薬歴管理室と名付けた部屋は、総合患者サポートセンターに隣接しており、配置した薬剤師による予定入院患者の持参薬確認、術前中止薬の指導、外来患者の麻薬導入指導と様々な役割を持たせました。お薬渡し窓口脇の薬剤師会のFAXコーナーが分かりづらく、お薬渡し窓口のベルを押す患者さんが後を絶ちませんでした。

薬剤部のメインは2Fに集約され、化学療法室、手術室、ICU、透析室と同じフロアで近くになりました。ただし、救命救急センターが1Fにあるため、宿日直の当番が処方薬を1Fの患者さんまで届けるという業務が新たに発生しました。

新古の機材が入り混じっての職場ですが、業務自体の更新も視野に入れ、人を育てていきたいと思います。



施設基本情報

住 所 山形県新庄市金沢720番地の1

診療科目 内科／脳神経内科／消化器内科／循環器内科／呼吸器内科／腎臓内科／糖尿・内分泌内科／血液内科／腫瘍内科／緩和ケア内科／精神科・心療内科／小児科／外科／乳腺外科／整形外科／形成外科／脳神経外科／皮膚科／泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻咽喉科／リハビリテーション科／放射線科／歯科／麻酔科／救急科／総合診療科(院内標榜)
(計28診療科)

病床数 325床

施設の特色 令和5年10月1日に新病院へ移転し、地域救命救急センター、地上ヘリポート、総合患者サポートセンターを新設、診療科も7科増となりました。最上地区唯一の中核病院として、一次から三次医療までの大部分が完結するよう期待されています。夜間休日診療を地域救命救急センター内に置き、新庄市最上郡医師会から派遣された医師が初期救急医療を担っています。



施設紹介

米沢市立病院と三友堂病院の 医療連携の経緯

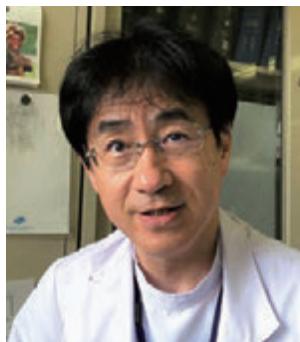
米沢市の救急医療は米沢市立病院、舟山病院、三友堂病院の輪番体制でしたが、少子高齢化、医師不足などの要因により維持が困難になることが懸念されていました。そのような背景のもと平成29年に「米沢市医療連携あり方検討委員会」が設立されました。そこで、米沢市立病院と三友堂病院の再編・統合による機能分化の方向性が示され、平成31年には両病院の新築移転による新病院建設基本計画が策定されました。米沢市立病院は重症患者の受け入れ、救急医療を担い、三友堂病院は回復期医療、緩和ケア、健診・ドック、慢性透析治療など米沢市立病院が担う機能以外を受け持つことで役割を分化し、資源を集約化することで米沢市の医療を存続させる計画になります。令和3年に新病院の建設実施計画が完成し、建設工事着工となりました。令和5年11月1日、新病院が開院し、同じ時期に地域医療連携推進法人よねざわヘルスケアネットが設立しました。両病院が隣接し地理的にも効率よい連携ができるようになり、米沢市民を中心に適切な医療を提供できる体制が整ったと言えます。



施設紹介

米沢市立病院

所属長より



当院薬剤部では「薬物療法の担い手としてチーム医療に積極的に参画し、院内業務を充実させるとともに地域医療の向上に貢献するため、学問・技術の研鑽に励み高い専門性を習得することに努める」を使命とし、日々業務を遂行しています。

当院は2023年の11月1日から全国初の公立病院と民間病院との医療連携推進法人として開院しました。米沢市立病院(急性期)と三友堂病院(回復期)が病院機能を分化した形で、全国に先駆けた地域医療の規範となるべくこれからも精進していく所存であります。

薬剤部長 渡邊 茂

薬剤部門概要

- 薬剤師数 13名(男性8名、女性5名)
- 薬剤助手 9名

[2024年4月実績]

- 1日平均処方箋枚数 外来 230枚 入院 77枚
- 院外処方箋発行率 94.3%
- 薬剤管理指導件数 933件
- 退院時薬剤情報管理指導件数 372件

薬剤部門の業務紹介

薬剤部は、現在13名の薬剤師と9名の薬剤助手の計22名で構成され、調剤、製剤、薬品管理、医薬品情報管理、入院患者への薬剤管理指導を中心に日々の業務を行っています。当院の場合、全面的に院外処方を発行していることから、必然的に入院患者を対象とした対人業務が中心となり、医師、看護師、多職種とのカンファレンス、回診を通して情報共有しながら病棟活動を推進しています。

新病院の薬剤部は4階にあり、旧病院に比べ病棟やICU・HCU、中央手術室へのアクセスが近いのが特徴です。また各病棟に薬剤師が業務を行うスペース(病棟薬局)を確保し、薬剤師と薬剤助手を配置し、薬剤管理指導業務を行っております。

また、1階の患者サポートセンターにも薬剤師を配置して、入院予定患者からの情報収集等を行い、入院患者と病棟担当薬剤師との懸け橋的な業務も開始しました。

当院の場合、病床規模的にもスタッフ間の距離が近いことから連携がとりやすく、また、チーム医療においても、感染管理(AST・ICT)、がん化学療法、精神科リエゾン、糖尿病、褥瘡管理、緩和ケア、栄養管理(NST)、災害医療(日赤救護班)の領域で薬剤師が参加し、その専門性を発揮しています。

新病院では調剤業務の機械化を積極的に取り入れ、病院薬剤師の確保が困難の中薬剤助手を有効に活用しながら、早期の病棟薬剤業務の実現に向け邁進していきたいと考えています。

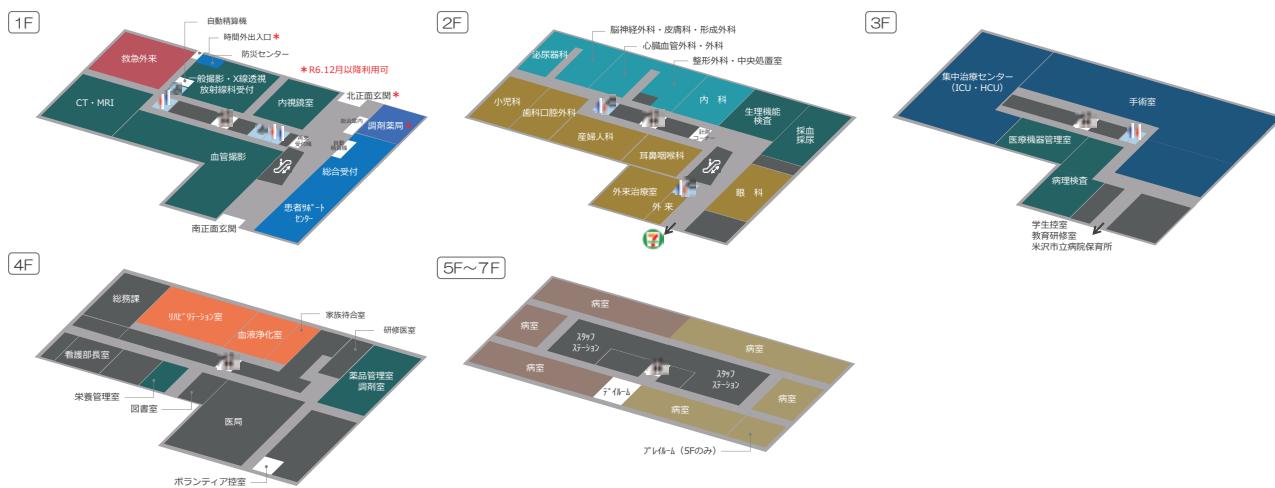
施設基本情報

住 所 山形県米沢市相生町 6-36

診療科目 内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、呼吸器内科、脳神経内科、腎臓・膠原病内科、リウマチ科、緩和ケア内科、小児科、皮膚科、放射線科、外科、消化器外科、内視鏡外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、病理診断科、歯科口腔外科

病床数 263床

施設の特色 米沢市立病院は昭和33年(1958年)に開設され、昨年新病院を開院しました。米沢は上杉米沢藩の名君上杉鷹山が医学校“好生堂”を建て、医学振興を図ったことから、多くの藩医等の子弟が遠く長崎などで最新の西洋医学を学び、地元に戻り、地域医療や医学の発展に貢献しました。そのため“東北の長崎”と評価されました。このような輝かしい伝統のある地域の医療を更に発展させるため、職員一同力を合わせて当院の医療理念である「地域医療への貢献、安心できる医療、良質で公正な医療の提供」の実践に取り組んでいます。(当院HP「事業管理者のあいさつ」より引用)。



米沢市立病院・三友堂病院 上杉薬剤ネット定例会

2023年11月に米沢市立病院と三友堂病院が同時オープンし、同一敷地内に共用施設を挟んで全国初となる公立病院と民間病院が一体化しました。経営自体は独立していますが、市立病院は救急や急性期医療、三友堂病院は回復期・在宅医療と機能を分化して医療提供を行っております。

こうした中で、2024年5月から市立病院の薬剤部と三友堂病院の薬局との間で「米沢市立病院・三友堂病院 上杉薬剤ネット定例会」を立ち上げ、毎月第4水曜日に情報交換会や症例検討会を開催しております。将来的には共同で調査研究等の発表や相互のスキルアップに繋がるような会にしていきたいと思います。

施設紹介

一般財団法人三友堂病院

所属長より



置賜地域で唯一の回復期病棟・緩和ケア病棟を有する病院という環境において、医薬品の適切な管理と薬学的ケアは、リハビリテーションおよび緩和医療の成功に直結する重要な役割を果たしております。私たちは、患者様一人ひとりの状態に応じた最適な薬物療法を提供し、リハビリ・治療の過程をサポートすることを使命としています。また、医療スタッフ間での円滑なコミュニケーションと、最新の医薬品情報の提供を通じて、患者様のQOLの向上に努めています。これからも、全ての患者様に安全で効果的な治療を提供できるよう、スタッフ一同、研鑽を重ねて参ります。今後とも、変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

薬剤部 部長 相馬 直記

●薬剤部のビジョン

先進的な医学薬学の情報を駆使し期待のはるか上を行くケアを行う
「置賜地域のリハビリテーション医療・緩和ケアのリーダーとして、科学的根拠に基づいた革新的な薬剤管理を推進し、患者さんの生活の質を向上させることを目指します。技術と知識の向上を図り、リハビリテーション医療における取り組みの成果を学術的に検証して公開します。」

薬剤部門概要

- 薬剤師数 6名(男性4名、女性2名)
- 補助員数 2名

[2024年6月実績]

- 1日平均処方箋枚数 外来74枚、入院77枚(2024年6月)
- 院外処方箋発行率 98.7%(2024年6月)
- 薬剤管理指導件数 138件(2024年度)
- 退院時薬剤情報管理指導件数 算定対象外



施設基本情報

住 所	米沢市福田町2丁目1-55
診療科目	内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科(人工透析)、神経内科、精神科、心療内科、外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、緩和ケア外科、皮膚科
病床数	199床(回復期リハビリテーション病棟90床、地域包括ケア病棟87床、緩和ケア病棟22床)
施設の特色	三友堂病院は、「信頼と融和で築こう良い病院」の理念のもと130年以上にわたり置賜地域の医療に貢献してきた歴史がある病院です。開設は1886年(明治19年)で、日本薬局方が作られた年と同じです。昭和、平成、令和の時代を救急から在宅まで幅広くカバーして参りましたが、2023年11月にリハビリテーションセンターを統合、新築移転し、回復期医療、緩和ケア、在宅医療に特化した病院となりました。米沢市の急性期医療を集約した米沢市立病院と隣接し、両院は地域医療連携推進法人よねざわヘルスケアネットを設立し、強力な医療連携を進めています。当法人は、三友堂病院のほか、三友堂介護医療院、三友堂クリニック、三友堂地域リハ・ケアセンター(訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、ヘルパーステーション、サービス付き高齢者住宅、通所リハビリテーション)、三友堂看護専門学校があります。

新病院紹介

●回復期リハビリテーション病棟

置賜地域で唯一の90床を有する回復期リハビリテーション病棟の薬剤師は、リハビリテーションのプロセスにおいて重要な役割を果たします。主な役割は、患者さんの薬物治療の最適化、副作用対策、そして退院後を見据えて継続可能な薬物療法を考案し、かかりつけの医療者に引き継ぐことあります。薬の副作用がリハビリの進行や患者さんのQOLに影響を与えることが明らかとなっており、リハ栄養、リハ薬剤という概念が提唱されています。回復期の薬剤師は、副作用のモニタリングを行い、必要に応じて薬物治療の見直しや変更を提案します。これにより、患者さんがリハビリテーションに集中できる環境を整え治療成績の向上を目指します。そのためには医師、看護師、リハスタッフなどと密に連携し、情報を共有してチームアプローチを行います。



回復期リハ病棟

●緩和ケア病棟

緩和ケア病棟は、がんやがんの治療によって生じる身体やこころのつらさを和らげることを目的とした病棟です。一般個室8部屋、シャワーとミニキッチン付きの特別個室2部屋、2床室6部屋の計22床を有します。キッチンを備えた明るく広々とした談話室、サンルームでは、患者さんとご家族がゆっくりとくつろぐことができるほか、季節ごとの行事も開催しますので、穏やかな時間を過ごすことができます。緩和ケアに関する専門的な知識や技術を持った多くのスタッフがチーム医療を実践し、患者さんやご家族との十分な話し合いのもと、在宅希望に応えるなど、患者さんの意向を尊重した最良の緩和医療を提供しています。病棟担当薬剤師には、緩和医療に携わる薬剤師に必要な基本姿勢のほか、専門的知識と実践能力が求められます。薬剤師は病棟薬剤業務を通じて、人明かりにつつまれた温かくそして確かな緩和医療の提供へ貢献しています。



緩和ケア病棟

新人紹介

※2024年6月末日までに入会された方で原稿を提出していただいた方を掲載しています。

①出身大学と卒業年および出身大学院と卒業年

②出身高校 ③趣味 ④抱負

庄内エリア

鶴岡市立荘内病院



今泉 友臣

- ①新潟薬科大学
2022年卒業
- ②酒田南高等学校
- ③野球、格闘技、
YouTube
- ④診療科が多いため、
様々な疾患を通して幅広い知識を習得して
いきたいと思います。

鶴岡市立荘内病院



清野 秀喜

- ①新潟薬科大学
2022年卒業
- ②鶴岡中央高等学校
- ③ドラマ、アニメ、
映画鑑賞
- ④様々な知識を身に
つけ、視野の広い薬剤師を目指したいと思
います。

鶴岡市立荘内病院



後藤 詩帆

- ①明治薬科大学
2024年卒業
- ②鶴岡南高等学校
- ③アニメ鑑賞
- ④病院薬剤師として
日々精進したいと
思います。

最上エリア

山形県立新庄病院



原田 莉沙

- ①新潟薬科大学
2021年卒業
- ②米沢興譲館高等学校
- ③カフェ巡り、映画
鑑賞、アニメ
- ④多くの先輩方にご
教授いただきながら、より良い医療の提供
のため日々努めています。

山形県立新庄病院



岸 真雪子

- ①東北医科薬科大学
2024年卒業
- ②山形東高等学校
- ③お菓子作りの動画、
カフェ巡り
- ④信頼される薬剤師
となれるよう、日々学びながら業務に励み
たいと思っております。

山形県立新庄病院



齊藤 和真

- ①東北医科薬科大学
2024年卒業
- ②山形南高等学校
- ③テニス、ラーメン
屋巡り
- ④チャレンジ精神を
持ち、常に成長する気持ちを忘れずに、業
務に取り組んでいきたいです。

新人紹介

山形エリア

山形大学医学部附属病院



古澤 南実

- ①東北医科薬科大学
2024年卒業
- ②山形西高等学校
- ③散歩
- ④様々なことに積極的に取り組み、日々成長できる薬剤師を目指していきたいです。

①出身大学と卒業年および出身大学院と卒業年

②出身高校 ③趣味 ④抱負

山形大学医学部附属病院



中嶺 太郎

- ①山陽小野田市立山口
東京理科大学
2024年卒業
- ②滝川第二高等学校(兵庫県)
- ③読書
- ④初めての東北移住、就職と新しい環境の中で、何事にも積極的に取り組みつつも楽しんでいきたいと考えております。よろしくお願いします。

山形大学医学部附属病院



松田 一将

- ①昭和薬科大学
2024年卒業
- ②山形南高等学校
- ③音楽
- ④診療、研究、教育、それぞれに精通し、多くの人から必要とされる薬剤師を目指します。

山形大学医学部附属病院



八鍬那名子

- ①東京薬科大学
2024年卒業
- ②日本大学山形高等学校
- ③寝ること、食べる
こと
- ④チーム医療の一員として、地元山形に貢献できるよう日々努力してまいります。

東北中央病院



中川 尚

- ①城西大学
2023年卒業
- ②日本大学山形高等学校
- ③温泉
- ④一人前の信頼される薬剤師へ成長で
きるよう努力していきます。

新人紹介

山形エリア

山形済生病院



小林 瑠夏

- ①東北医科薬科大学
2024年卒業
- ②山形西高等学校
- ③音楽を聞くこと
- ④患者さんの立場に
立って考え、寄り

添える薬剤師を目指します。

①出身大学と卒業年および出身大学院と卒業年

②出身高校 ③趣味 ④抱負

山形済生病院



深瀬可奈子

- ①城西国際大学
2023年卒業
- ②日本大学山形高等学校
- ③硬式テニス、映画・
ドラマ鑑賞
- ④他職種と連携を取
り、地域医療に貢献できるよう業務に取り
組みたいです。

山形済生病院



吉岡 大河

- ①新潟薬科大学
2021年卒業
- ②山形東高等学校
- ③推理小説
- ④率先して業務に携
わり、何でも吸収

して一人前の薬剤師になれるよう頑張ります！

山形市立病院済生館



柏倉 慶吾

- ①奥羽大学
2024年卒業
- ②東海大学山形高等学校
- ③旅行、車
- ④患者さんの気持ち
に寄り添える薬剤
師になりたいと思います。

山形市立病院済生館



渡邊 優子

- ①東北医科薬科大学
2023年卒業
- ②山形西高等学校
- ③旅行、舞台観劇
- ④常に学ぶ姿勢を持
ち、患者さんとの

関わりを大切に日々努力していきます。

山形市立病院済生館



杉本 拓哉

- ①東北医科薬科大学
2015年卒業
- ②藤枝明誠高等学校
(静岡県)
- ③料理
- ④患者様に貢献でき
るように精一杯頑張りますのでよろしくお
願いします。

*昨年度掲載予定でしたが、広報委員会の落ち度により
掲載されませんでした。誠に申し訳ありませんでした。

新人紹介

①出身大学と卒業年および出身大学院と卒業年

②出身高校 ③趣味 ④抱負

山形県立中央病院



佐藤 沙紀

- ①東北医科薬科大学
2024年卒業
②山形西高等学校
③テニス、野球観戦
④患者さんにより良い医療を提供でき

る薬剤師になれるよう頑張っていきたいです。

山形県立中央病院



土田 貴明

- ①東北医科薬科大学
2024年卒業
②山形南高等学校
③身体を動かすこと・日本酒を飲むこと

④多職種の医療従事者の方々や、患者様からも信頼される薬剤師を目指します。

山形県立中央病院



佐藤 怜未

- ①東北医科薬科大学
2024年卒業
②福島県立会津高等学校
③旅行、ドライブ、パン屋さん巡り
④患者さんに頼られ

る薬剤師になれるよう、日々学んでいきたいと思います。

山形県立中央病院



渡辺 祐太

- ①東北薬科大学
2016年卒業
②日本大学山形高等学校
③釣り、キャンプ
④以前の職場とは役割の違う病院なので少しでも早く力になれるように精一杯頑張ります。



新人紹介

置賜エリア

米沢市立病院



上杉有里奈

- ①東北医科薬科大学
2024年卒業
- ②米沢興譲館高等学校
- ③カメラ、ハムスター
を愛でること
- ④この名に恥じぬよ
う為せば成る精神で精進してまいります。

①出身大学と卒業年および出身大学院と卒業年

②出身高校 ③趣味 ④抱負

米沢市立病院



嶋貴 詞

- ①東北医科薬科大学
2023年卒業
- ②長井高等学校
- ③旅行、ライブに行く
- ④薬剤師としてだけ
ではなく、社会人
としても成長していくように頑張りたい
です。

置賜総合病院



中野 里菜

- ①東北医科薬科大学
2024年卒業
- ②長井高等学校
- ③カフェ巡り、音楽
を聞くこと
- ④地域医療に貢献で
きるよう様々なことに関心を持ち、自己研
鑽に励んでいきたいです。



活動報告

生涯研修委員会の活動報告

生涯研修委員会 委員長 國井 健(文責) 副委員長 板垣 有紀
高橋 和枝・須藤 将裕・黒田 晋平・竹屋 里恵

昨年度から山形県病院薬剤師会として新たに生涯研修委員会が発足し、「日病薬の生涯研修制度」や「日病薬病院薬学認定薬剤師の資格取得」等の啓蒙を目的とした『新人研修会』を行っている。

今年度は第2回目の新人研修会を、昨年の終了後アンケート結果を参考にして「病院薬剤師の生涯研修について」「専門・認定薬剤師について」の2部構成で開催した。

今回も事前・終了後アンケートにより新人達がどのように感じているかの調査を行い、結果は「必要なもの」「他職種から信頼される」等の意見があり、概ね好評だったのではないだろうか。

県病薬の新人薬剤師全21名中19名の参加であったが、この高い参加率から見ても新人薬剤師にとっては、興味深い貴重な研修会が企画出来ているという事ではないだろうか。

また新人薬剤師にとっては他施設の同期薬剤師と横の繋がりを深めて貰うために、昨年に引き続き情報交換会も企画した。情報交換会は新人・講師陣合わせて27名が参加し、大変な盛り上がりを見せ終了できた。

その他にも、昨年度行った『新人研修会』において開催前と開催後にアンケートを取り、その研修会前と後での意識の違いについて、今年の7月に熊本で行われた「医療薬学フォーラム」に生涯研修委員会メンバー3名で参加しポスター発表を行ってきた。全国の薬剤師の頑張りを実感すると共に、熊本での食事・観光も満喫してきました！

来年度も貴重な研修会になるよう企画して参りますので、皆様のご協力よろしくお願いします。



会員報告

「妊娠と授乳お薬相談窓口」業務を通して

山形済生病院 薬剤部 田口 未菜

済生会山形済生病院（以下、当院）では2023年2月より「妊娠と授乳お薬相談窓口（以下、相談窓口）」を開設し、当院に通院中の方を対象に妊娠中や授乳中の薬物療法に関する相談の受付、回答を行っている。これまでの経過を報告する。

当院は山形県の地域周産期母子医療センターに認定されており、年間600～700件ほどの分娩を行っている。不妊治療も行っており、妊娠を希望される方から妊娠中、授乳中の方まで周産期に関わる患者が幅広く通院されている。

そんな中、相談窓口開設以前にも妊娠中・授乳中の薬の使用に関する質問や相談が薬剤部に寄せられてはいたものの、妊婦健診等で接する機会の多い医師や助産師・看護師にも相談が寄せられており、相談を応需する窓口が明確ではなかった。また、母親学級を通して薬剤師が実際に妊婦と接する中で、妊娠中・授乳中の薬の使用についての理解は不十分であり、インターネットなどの不確かな情報に左右されてしまうことを実感した。さらに、妊娠中・授乳中に薬を使用することに対して不安を感じているものの、特に授乳中の女性は、相談したくてもどこに相談すればよいかわからないといった現状があることを知った。そこで、相談窓口開設に向けて産婦人科医師、小児科医師、助産師・看護師等と協議を重ね、2023年2月、ついに「妊娠と授乳お薬相談窓口」が開設された。

当院の相談窓口では、相談の受付から回答までの一連の対応をすべて薬剤師が行っている。また、対面での相談の他、公式LINEを活用した相談対応も行っている。これにより、体調不良や育児等で来院が困難な場合でも気軽に相談いただけたと考えた。実際、このサービスは相談者にも好評であり、「いつでも相談できて安心」と相談者の半数以上が公式LINEにて相談を行っている。

また、相談窓口開設に伴い、妊娠中・授乳中の薬の使用に関する相談や質問の窓口が薬剤部に一本化された。例えば、助産師へ相談があった場合には薬剤部へ紹介していただくこととなった。その結果、薬剤部への相談件数は劇的に増え、開設前は年に10件程度の相談件数であったが、開設後の2023年度は年間123件の相談があった（図1）。そのうちの約半数は相談者自らが相談窓口の存在を認知し連絡をいただいており、相談窓口が明確化した結果であると考える。相談内容としては、妊娠中の相談が50件、授乳中の相談が73件であり、授乳中の相談が多く集まった（図2）。

窓口開設に伴い、もちろん薬剤師の負担は大きくなったが、それ以上のメリットがあったと感じている。1つは前述の通り相談窓口が明確化し、相談が簡便になったこと。公式LINEの活用も相まって、受診日以外でも相談することができるとともに、来院せざるとも自宅から相談が可能になったことで、相談窓口をより身近に感じていただけたと考える。特に授乳中の場合は気軽に外出できないことが多く、受診の機会も少ないとから公式LINEを有効に活用していただいているように感じている。2つ目は医療従事者の負担が軽減したことである。専門医もしくは産婦人科外来にとって相談対応の業務負担が軽減することはもちろんのこと、専門医以外の医師にとってもメリットは大きいと考えている。妊娠中・授乳中の患者の治療は気を遣うことが多いと予想されるが、明確な相談窓口があることで、専門医等に相談する手間やためらいが軽減することもあるのではないかと考えている。実際に、整形外科医や内科医等から相談をいただく機会も少なくない。3つ目は薬剤師の職能が発揮できるこ

とである。相談の受付から回答までを薬剤師が行うことにより、相談内容が的確に把握できる。また、正しい情報を正しく伝えることが可能であり、相談者の表情や反応をみて、正しく理解できているかどうか確認しながら回答を行うことができる。ただし、ビデオ通話による対応の場合、対面時と比較して理解度や感情が読み取りにくいことがあるため、慎重に回答を行う必要がある。

妊娠中もしくは授乳中に不安を感じている女性は多い。原因が明確な不安のみならず、漠然とした不安を抱えている方もいらっしゃる。その不安に対して薬剤師ができるることはほとんどないのかもしれない。だからこそ、薬に関する不安や疑問くらい力になりたいと考えている。不安を抱えた妊婦・授乳婦に寄り添い、少しでも不安を軽減する場としてこの相談窓口を利用してもらえた嬉しく思う。また、この相談窓口を通して、病院薬剤師の存在を身近に感じ、困ったときには頼りにしてもらえるよう努力したい。

一方で、社会的ニーズは日々変化していく。当時のニーズに応えるために開設したこの相談窓口にも新たな役割が求められているのかもしれない。現状に満足することなく、より安心な周産期の薬物療法を提供できるよう尽力していきたい。

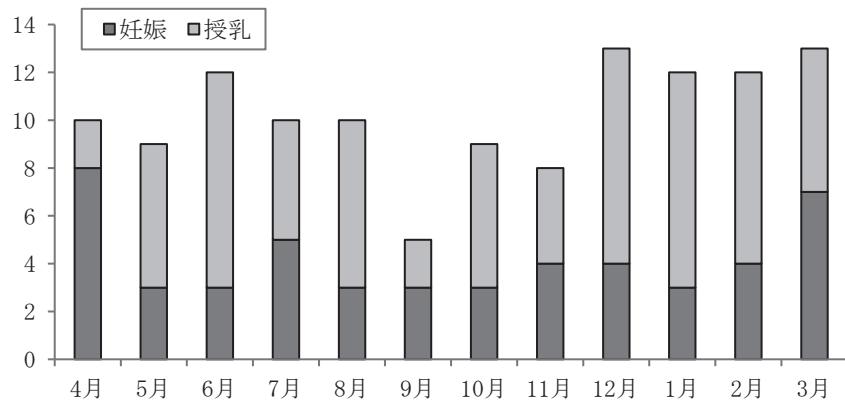


図1 2023年度相談件数

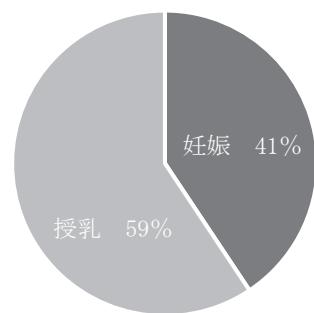


図2 相談内容内訳

DI実例報告

日本海総合病院

TEL 0234(26)2001

Q：ドブタミン持続静注150mgシリンジ「KJC」、イノバン注0.3%シリンジは末梢から原液で投与してよいか？

A：添付文書上ではどちらも「他の薬剤を混注して投与しないこと」となっている。

ドブタミンは50mg/50mL、150mg/50mL、300mg/50mLの3規格が存在するが、いずれも末梢単独持続静注可能。

イノバンにおいては5μg/kg/min以上での投与において血管痛が多く出現するとされているが、それ以下でも出現する。なるべく太い静脈を選択し投与するのが望ましい。

問い合わせ先：協和キリン株式会社
くすり相談窓口

Q：シングリックス筋注用について、接種後、効果はどのくらいで現れるのか？

A：臨床試験では2回接種の1ヶ月後の免疫応答が確認されたとのデータがある。また、1回目に生食を投与し、2回目にシングリックスの2倍の用量の抗原を投与した場合の1ヶ月後の免疫応答が、シングリックスを2回投与した場合と比較して有意に低いデータがある。

以上のことから、少なくとも2回接種の1ヶ月後には予防効果が現れると考えられる。

参考：シングリックス総合製品情報概要
インタビューフォーム

問い合わせ先：グラクソ・スミスクライン

Q：ザバクサ配合点滴静注用の溶解液について

A：ザバクサ配合点滴静注用を投与中に高Na血症出現。生食キットH100mLで溶解していたが、5%ブドウ糖液100mLへ変更となった。添付文書上では、「注射用水又は生理食塩液を

加え溶解し、生理食塩液又は5%ブドウ糖液に希釈する」と記載あり。

5%ブドウ糖液での溶解に関しては記載がなかったため、メーカーへ問い合わせ。

臨床試験時に、生理食塩液または注射用水でしか溶解していなかったため、5%ブドウ糖液での溶解についてデータなし。添付文書の記載通りに溶解するよう回答された。

問い合わせ先：MSDカスタマーサポートセンター

**Q：フェノバルバール散10% 1日0.3g (30mg)
1日2回に分けて内服中の患者。**

嚥下困難で内服不可となったが、ノーベルバール静注用で代替する際の用量・用法は？

A：ノーベルバール静注液は「新生児けいれん」と「てんかん重積状態」の適応のみであり、予防・コントロールのための用量設定はされていない、適応外である。

参考として、フェノバルビタールの経口投与は、静脈内投与と比較してバイオアベイラビリティが96%である。

また、新生児けいれんの維持投与としてはフェノバルビタールとして2.5～5mg/kgを1日1回の投与と設定されている。

問い合わせ先：ノーベルファーマ
カスタマーセンター

Q：パルモディアXR錠は分割可能か？

A：パルモディアXR錠は徐放性顆粒をフィルムコーティングしたマルチプルユニット型徐放性製剤である。

添付文書、インタビューフォーム上では「碎いたり、すりつぶしたりしないで、そのままかまざに服用すること」と記載あるが、分割

については記載なし。

興和薬品へ問い合わせ、分割は想定しておらず避けたいなどとの回答あり。

問い合わせ先：興和お薬相談室

Q：心臓手術前にコララン錠の休薬は必要か？

A：メーカー回答

添付文書上は記載なし。メーカーとしても術前休薬の案内はしていない。

国内外ガイドラインの記載等は把握していない。

参考：活性代謝物の半減期は10時間前後かつTmax1時間に対し徐拍化のピークは5時間程度。

問い合わせ先：小野薬品

Q：ロケルマ懸濁用散は、添付文書上「約45mLの水に懸濁すること」とあるが、45mLでなければだめなのか？

A：メーカー回答

日本の試験は海外で行われた試験をもとに45mLの水と設定。

その根拠となった海外の試験も、特に具体的な検討に基づいて設定された水の量ではない。試験を行うにあたって必要があったための設定であり、物性的な検討はされていない。十分な懸濁がされるのであれば、水の量はそれほど問題とならないと考えられる。

問い合わせ先：アストラゼネカ（学術）

Q：ネキソブリッド外用ゲル5gの使用方法について

Q1：調製時にはゴーグルや手袋を装着した方が良いか？

A 1：調製時には粉末が飛散して眼や鼻などに付着しないよう注意が必要。

ゴーグルや手袋は装着した方が良い。

また、調製後の薬剤についても刺激になることがあるため、直接皮膚につかないように。

Q2：舌圧子は、金属製と木製どちらが良いか？

A 2：木製のものを推奨している。

Q3：使用する部位に制限はあるか？

A 3：臨床試験では生殖器および会陰部には使用していないためデータはないが、使用の制限はない。

Q4：化学熱傷・電撃熱傷には使えるか？

A 4：臨床試験では使用したデータはない。

熱傷の状態が異なり、また化学熱傷は表皮が残っている場合が多いので推奨できない。

Q5：同部位に使用は2回までとあるが、間隔は？

A 5：間隔は空けなくても良い。

Q6：冷蔵庫から出した後は、室温でどのくらい保管可能か？

A 6：凍結乾燥品 → 3ヶ月

混合用ゲル → 6ヶ月

一度冷蔵庫から出した薬品は、24時間以内であれば冷蔵庫に戻して保管可能。

問い合わせ先：科研製薬MR

DI実例報告

鶴岡市立荘内病院
TEL 0235(26)5111

Q: CT画像における放射線不透過性(高吸収域)を有する薬剤について

問い合わせ元（どこから？）：消化器科医師
問い合わせ内容：ロケルマは放射線画像で高吸収域があるが、他に高吸収域がある薬剤はあるか。

A：

ロケルマ

不溶性かつ非吸収性のジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物で、選択性の高い傾向懸濁性の粉末製剤。

欧州の使用上の注意にX線との干渉リスクとして、ロケルマはX線に対して不透過である可能性があるため、腹部X線を実施する場合、放射線画像診断医はこれを念頭におくこととの記載あり。

他に高吸収域のある薬剤

放射線透過性は、物質を構成する原子の原子量が大きいほど（鉄、金、銅、ヨードなどの金属）、また密度が高いほど低下する。

睡眠薬では原子番号が比較的大きいbromineを含むプロモバレリル尿素が大量服用時、ヨードを含有しているアミオダロン（ヨード含有37%）などがある。

参考：PMDA

急性薬物中毒症例の単純CT錠の特徴

- 胃内底部の高吸収域像 -

レジデントノート増刊Vol.22 No.2画像診断ドリル 救急医と放射線科医が伝授する適切なオーダーと読影法 第5章

Q：イソバイド内用液70%の色調変化について

問い合わせ元（どこから？）：調剤室担当薬剤師
問い合わせ内容：イソバイド内用液70%の在

庫していたものと購入していた物の色調が明らかに異なる。在庫していたものが黄変、購入したものが無色透明であった。使用してもよいか？

A：添付文書「3.2製剤の性状：無色～淡黄褐色の液で芳香があり、やや酸味があって、甘い」、「20.2：本剤は保存条件により、多少色調の変化が見られることがあるが、薬効には影響はない。」と記載あり。

セオリアファーマ株式会社メディカルインフォメーション室（0120-72-1136）に電話で確認。

色について「淡黄褐色」とは例えると「おいお茶」程度の色調のことを表している。当院の物はレモン水程度であったため問題ないであろう。色調の変化が強い物に関してはメーカーの担当者が確認に行き必要に応じて交換をおこなっているが、それでも薬効には影響がないものばかりであった。色調の変化の原因は添加物の温度による変化と考えられ、原因と思われる物質は概ね見当ついているが公表はできない。一度、色調が変化すると元には戻らない。色調が変化していても成分への影響はないので使用は可能。切替時のタイミングで色調が異なる物を払い出すことになる場合は説明して頂きたい。

との回答であった。

参考：添付文書、インタビューフォーム

セオリアファーマ株式会社メディカルインフォメーション室（0120-72-1136）

Q：チラーゼンの食事・他剤との影響

問い合わせ元（どこから？）：小児科医師
問い合わせ内容：NICU入院中の児で、チラーゼンをミルクに溶いて内服している。またイ

ンクレミンシロップを同時に服用しているが効果に影響はあるか？

A :

《チラーチンとミルク》

一部食品（コーヒー・海藻などのヨード含有食品・食物纖維・ビタミン剤）などでチラーチンの効果減弱が疑われた成人での症例報告があった。

Altered intestinal absorption of L-thyroxine caused by coffee. Thyroid. 2008 Mar;18 (3) : 293–301

ただし、極端な大量摂取でなければ問題ないと考えられている。（メーカー回答）

先天性甲状腺機能低下症マスクリーニングガイドラインでは少量の母乳で溶いて服用可能、食事の影響があるため一定時間での服用が望ましいとの記載。

http://jspe.umin.jp/medical/files/guide20211027_3.pdf

《チラーチンと鉄剤》

鉄に限らず、アルミニウム・マグネシウムなどでキレート形成により吸収低下の可能性がある。

厚生労働省 重篤副作用疾患別対応マニュアル 甲状腺機能低下症

<https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/11/dl/tp1122-1d39.pdf> p36-38

チラーチン内服中の成人に鉄剤を追加し同時に内服したところTSH上昇がみられた報告あり。Campbell NR et al., Ann Intern Med, 117:1010-1013, 1992.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/1443969/>

○今回の症例の対応

主治医に上記について情報提供。甲状腺機能についてはTSHが順調に低下しているが、Hbが想定より上昇していないとの情報入手→インクレミンの吸収阻害も起こっている可能性があるため、ミルクへの混合は継続しチラーチンとインクレミンの服用タイミングをずらすこととなった。

Q：造影剤が眼に入った場合の対応について

問い合わせ元（どこから？）：循環器医師→医療安全担当看護師→薬局長→DI室

問い合わせ内容：造影剤が眼に入った。対応方法について。

A：バイエルホームページ「ちょっと役立つ造影検査に関する話題－CT編－Ver.3.0」の「検査時 Q10-5 ヨード造影剤が眼に入ったり、服や検査機器などについた場合にはどんな処置を行えばよいですか？」の回答に「CTで用いられるヨード造影剤は水溶性ですので、誤って眼に入ったり、衣服や検査機器などに付いた時には微温湯、水、または生理食塩液で洗浄してください」と記載あり。解説として、「涙管造影の保険適応を持つ造影剤はありませんが、適宜、水溶性造影剤が用いられ、涙道造影のカテーテル抜去前に涙嚢、眼球結膜の生理食塩液による洗浄が行われていますので、眼に入った場合にも特別な心配はありません。」（一部抜粋）と記載あり。その旨をお伝えした。

参考：ホームページ「Bayer in Radiology」>ちょっと役立つ造影検査に関する話題－CT編－Ver.3.0

Q：1%CHGの加温後の安定性

問い合わせ元（どこから？）：手術室

問い合わせ内容：患者が寒くないように加温（38-40°C）して使用している。繰り返し使用しているが問題無いか？

（※翌日には使用できており48時間以上残ることはない。）

A：インタビューフォームで40°C・75%で未使用6ヶ月間のデータがあり。

同薬品での開封のデータはないが、0.5%ヘキザックアルコール液の開封後40°C保温環境下における経時変化のデータがあり（別紙）、4週間後においても規格を満たしていた。

→現在の使用方法で問題ないと回答した。

参考：インタビューフォーム

Q: エレンタールの半固体化について(経管投与)

問い合わせ元（どこから？）：循環器科担当薬剤師

問い合わせ内容：胃瘻患者にエレンタールを半固体化し経管投与したい。

A：メーカーより無償提供の資材があり、硬さを調節する資材が3つある。

熱湯で作るタイプはゼラチンが減量、水で作るタイプはアルギニンでカルシウムイオンに反応し固まり、ムースタイプはでん粉、タピオカ粉、グーグアムなど含み、水と作成後の静置時間で粘度が変化する。

150mLの水で溶解し30分後に7300mPa/s、120分後に8000mpa/sでマヨネーズくらいの硬さになる。

ただし、お湯で作るタイプ、水で作るタイプは投与は避けた方がよく、ムースタイプであれば硬さを調整すれば投与できるかもしれないが、どれも経口を想定しているため、経管投与の検証は行っておらず、メーカーとしては推奨していない。

参考：メーカー（EAファーマ）問い合わせ

Q：ベルケイド注射用の溶解後の安定性

問い合わせ元（どこから？）：内科医師

問い合わせ内容：ベルケイドを祝日に施行予定のため施行前日に薬局で調製可能か。

A：ベルケイドは施行前日に薬局で調製可能。

添付文書上の溶解後8時間以内に使用することについてメーカーに問い合わせると防腐剤が入っていないことによる品質管理のためであり、生食希釀1mg/mLと2.5mL/mLの濃度で溶解24時間後の含量・PH・性状は室温と5℃で規格内の回答あり。社内資料のため文献提供は不可。

参考：ヤンセンファーマ株式会社

Q：ツイミーグ錠の粉碎

問い合わせ元（どこから？）：消化器科医師

問い合わせ内容：ツイミーグ錠は粉碎での処

方はできないようだが簡易懸濁は可能か？

A：ツイミーグ錠は錠剤のコーティングを破壊しない場合は10分間放置しても懸濁できない。粉碎は推奨されていないが、粉碎後の安定性に問題はないと思われることから、ツイミーグ錠は粉碎オーダー可能に院内で設定変更となった。

粉碎の安定性は光試験で50日後98.8%、湿度試験で3ヶ月後97.9%のデータあり。錠剤のコーティングについてはメーカーに確認し、流通上の破損防止のためという情報しかなく徐放性を持たせているためではないと返答あり。

参考：住友ファーマ株式会社

Q：フェインジェクトを前回投与の6日後に投与することは可能か。

問い合わせ元（どこから？）：産婦人科医師

問い合わせ内容：フェインジェクトの予定投与の前日に外来受診あり、前回投与の6日目に投与は可能か（手術予定のため自己血の貯血を行っている。）

A：投与間隔が7日間であるのは、反復投与の臨床試験を参考にしている。

投与後血清鉄（フェインジェクト本体+生体タンパク結合鉄）濃度が急上昇するが、4日目には下限まで減少（マクロファージ内に取り込まれトランスフェリンと結合し血中へ、その後赤血球内に取り込まれる）。その後7日目も下限値を保っていたことから、投与6日目の血中鉄濃度が高値になるとは考えにくいが、鉄過剰のリスク回避のため猶予をもって7日目以降に次回投与の設定となっている。6日目の投与ではおそらく安全性に問題はないと考えられるが、保険上の査定の可能性あり。（ただし、山形県内では査定の症例はないとのこと。）メーカーとしては添付文書どおり7日以上間隔をあけての投与を推奨する。

7日以上あけた場合の効果について、臨床試験では月経過多の症例で6週に3回投与（約2週に1回）の事例が含まれていた。最終投与から4週でHb上昇の効果がピークとなる

と言われているため、遅れる可能性はあるが、Hbの上昇率自体は投与量に依存するため最終的な効果はあると考えられる。

※ただし、今回の症例は手術日が決まってい
るため、投与を遅らせる判断が難しい可能
性あり。

参考：インタビューフォーム
メーカー（ゼリア新薬）問い合わせ

D I 実例報告

北村山公立病院
TEL 0237(42)2111

Q：調剤薬局からの質問。

令和5年8月1日から「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえた時限的・特例的な取り扱い(0410対応)」の診療報酬上の取り扱いが終了したが、現在も院外処方箋原本を持たずに患者が来局し、(当院からのFax情報を基に調剤した)薬を貰っている。現在もこののような取り扱いは可能なのか?

A：令和4年9月30日に発出された「オンライン服薬指導における処方箋の取り扱いについて」(令和4年3月31日付 厚生労働省医薬・生活衛生局総務課、医政局医事課事務連絡→令和4年9月30日付一部改正)より、対面診療の場合でも院外処方箋原本を後日送付する事が認められている。これは、今回の0410対応の診療報酬上の取り扱いが終了する件とは別の通知である。医療機関から処方箋原本を入手するまでの間は、Fax等により送付された処方箋情報を処方箋原本とみなして調剤を行うことが可能である。(電子処方箋に向けての法整備と考えられる)

問い合わせ先：厚生労働省
医薬・生活衛生局総務課

※補足

オンライン服薬指導については、令和2年9月に制度化され、令和4年3月および令和4年9月に薬機法施行規則の改正がなされた。一方、令和2年4月10日に新型コロナウイルス感染症の拡大に対応するため、本来のオンライン服薬指導とは異なる時限的・特例的な対応として、画像のない電話等を用いた服薬指導が可能であった。(0410対応)

	オンライン服薬指導	0410対応
実施方法	同右	初回でも、薬剤師の判断により電話対応・オンライン服薬指導の実施が可能
通信方法	映像及び音声による対応(音声のみ不可)	電話(音声のみ)でも可
処方箋	同右	どの診療の処方箋でも可
薬剤の種類	同右	原則として全ての薬剤(手技が必要な薬剤については薬剤師が適切と判断した場合に限る)
薬剤の取り扱い	同右	医療機関からファクシミリ等で送付された処方箋情報により調剤可能(処方箋原本は医療機関から薬局に事後送付)

Q：授乳中の患者さんにイオパミロン注300シリジを使用予定。使用後どのくらいあれば授乳可能か？

A：ヨード造影剤投与後24時間以内の母乳への移行は投与量の1%未満、乳児の消化管からの吸収は母乳中の造影剤の1%未満という報告がある。海外のガイドラインでの取り扱いならびに母乳への造影剤の移行に関する基礎データを勘案すると、使用後の授乳による乳児への影響は非常に小さいと考えられ、造影剤使用後の授乳制限は不要である。

問い合わせ先：日本医学放射線学会

Q：PONV(術後恶心・嘔吐)対策としてオニダンセトロン注4mgを使用したが、追加で投与したい場合の投与間隔は？

A：添付文書およびIFに記載はないが、6時間以内の再投与は有効性が認められていないため、6時間以上を基準とし、再投与を考慮すること。

問い合わせ先：丸石製薬

Q：プラリア皮下注60mgシリンジの投与をしたいが、抜歯後何日経過すると投与可能か？

A：「薬剤関連顎骨壊死の病態と管理：顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー 2023」によると、

抜歯後は、概ね2週間程度で抜歯窩の閉鎖（上皮化）が完了する。これが投与開始時期の目安となるが、糖尿病などの基礎疾患、グルコルチコイドや悪性腫瘍薬などの併用薬の影響を考慮すること。

患者さんの状態に応じて、医師の判断で投与決定すること。

問い合わせ先：第一三共学術

Q：テリボン皮下注28.2 μ gオートインジェクターの投与日と手術日が重なったが、投与しても大丈夫か？

A：投与後に血圧低下が見られるため手術当日の投与は推奨しない。投与する場合は、血圧のモニタリングを行うこと。

問い合わせ先：旭化成ファーマ

D I 実例報告

山形大学医学部附属病院
TEL 023(633)1122

Q：妊婦に投与可能な湿布薬はあるか。

A：サリチル酸メチルは胎児への悪影響がほとんどないとされており、医療用ではMS冷シップ・温シップがある。

《参考》

添付文書

Q：リパクレオン[®]カプセルは経管投与可能か。

代替薬はあるか。

A：リパクレオン[®]カプセルは懸濁して経管から投与すると胃酸により失活するので経管投与不適。代替薬に関してはバリチーム[®]配合顆粒の採用がある。

《参考》

経管投与ハンドブック第4版

Q：ユルトミリス[®]投与予定の患者に髄膜炎菌ワクチンであるメンクアッドフィ[®]筋注を投与するが、1回でよいか？また、保険適応として認められるか？

A：通常1回でよいが、免疫抑制状態の患者に対しては、第1期接種として8週以上間隔をあけて2回接種することが推奨される。1回投与すればユルトミリス[®]の投与は可能であり、5年ごとに追加接種することが推奨される。また、ユルトミリス[®]投与のための予防接種であれば保険適応も認められると考える。

《参考》

添付文書、適正使用ガイド、メーカー（アクシオンファーマ合同会社）回答

Q：ベセルナクリームを角化症治療で用いるときには治療範囲が広く2包使用しても良いか？

A：2包以上使用した成績が無く、1包を超えて使用しないよう最大1包となっている。2

包以上使用すると副作用も出やすくなってしまうため1包を超えての使用は推奨しかねる。

《参考》

持田製薬株式会社ホームページ Q & A

Q：エポジン[®]を1回3000単位週3回投与している場合ダルベポエチンに換算するとどのくらいか？

A：週1回、1回40μgに相当。

《参考》

添付文書

Q：PSL長期内服のためアレンドロン酸を内服している患者にランマーク[®]を投与したいがアレンドロン酸との併用は避けたほうが良いか？

A：同じ骨吸収の薬剤であり、併用による安全性試験も行われていない。メーカーも併用は推奨していないためランマーク[®]を開始するのであればアレンドロン酸は中止していただくのが良いと考える。

《参考》

第一三共株式会社ホームページ ランマーク[®]のQ & A

Q：リクシアナ[®]の投与量について、体重60kg未満のため30mgに減量となるがエリスロシンも内服していると15mgにする必要はあるか？

A：体重により30mgに減量となっている場合はエリスロシンを併用していてもさらに減量する必要はないと考える。ただし出血リスクは併用しない場合と比べると高くなることは予測されるため出血が見られるような場合は減量も考慮した方が良いと考える。

《参考》

第一三共株式会社ホームページ リクシアナ[®]
のQ & A

**Q：レルベア[®]（フルチカゾン）使用中で嗄声
が出現。嗄声が生じにくいステロイド吸入薬
は？**

A：フルチカゾンは比較的嗄声が出やすいステ
ロイドである可能性を情報提供。比較して、
ブデソニド、ベクロメタゾン、モメタゾン、
およびシクレソニド（特に当医薬品）は嗄声
が生じにくい可能性を情報提供した。

《参考》

添付文書、文献：吸入ステロイド薬の副作用
である嗄声発現の要因解析

**Q：プログライフ[®]内服中の患者においてポカリ
スエット[®]は飲まない方が良いか？アクエリ
アス[®]は大丈夫か？**

A：含有率5%未満のため表示義務はないがポ
カリスエット[®]にはグレープフルーツ果汁が
含まれており、避けた方が良いと思われる。

アクエリアス[®]には含まれていないのでプロ
グラフ[®]への影響はないと考える。

《参考》

メーカー（大塚製薬）回答、コカ・コーラホー
ムページ

**Q：ビソノ[®]テープからビソプロロール錠への
変更する際の切替えタイミングは？**

A：メーカーが推奨する切替えタイミングはな
い。薬物動態を参照し、剥離時にビソプロロー
ル錠を開始する方法を提案。その際、一時的
に血中濃度が上昇するおそれがあるため、徐
脈や低血圧などの症状に注意するよう提案し
た。

《参考》

添付文書、トーアエイヨー株式会社ホー
ムページ ビソノ[®]テープのQ & A

D I 実例報告

山形市立病院済生館
TEL 023(625)5555

Q：リーマス錠について

1歳9ヶ月、約10kgの小児が炭酸リチウム錠200mg2錠を誤飲したと思われる。小児の体内薬物動態および投与例等あるか。

A：症例報告として、先天性顆粒球減少症（適応外使用）の小児への投与例（13か月児に600mg～900mg/m²、11か月児に500mg～1000mg/m²）あり。どちらも入院で漸増しながら投与し、重篤な副作用はなかった。薬物動態については小児の適応がなく添付文書以上の回答はできない。

問い合わせ先：大正製薬

Q：ゼンタコートカプセルについて

漸減する際、具体的な用量の指定はあるか。

A：国内第Ⅲ相試験では9mg→6mg→offを行ったが、指定するものではない。患者の状態に合わせて漸減可。

問い合わせ先：ゼリア新薬工業

Q：ミチーガ皮下注用について

痛みに焦点を当てた薬剤で、他の生物学的製剤とは標的とするサイトカインが異なるが、デュピクセント皮下注やアドトラーザ皮下注との併用は可能か。また、併用した症例はあるか。

A：臨床試験において併用したデータはない。基本的に併用は不可と考えられ、保険的にも切られる可能性が高い。全国的にも併用した症例は報告されていない。

問い合わせ先：マルホ

Q：マンジャロ皮下注について

①副作用として消化器症状が出た場合、制吐薬を使用するか、減量するかの判断はどうした

らよいか。

- ②使用する制吐薬は具体的に何があるか。
③心疾患、腎疾患への有効性の情報はあるか。

A：

- ①対応としては予防的に制吐薬を服用、症状出現後の服用、減量の3パターンがあるが、メーカーとしてどのような場合にどれを推奨という基準はない。例えば消化器症状がみられるがHbA1cを下げる必要があるケースでは、まずは制吐薬を使用し、それでも継続が難しければ減量を検討してはどうか。
②ドンペリドン、メトクロラミド、モサブリドを使用することが多い。
③グローバルなサブグループ解析では、心血管イベントの減少傾向がみられたが、明確なデータはまだ出ていない。

問い合わせ先：日本イーライリリー

Q：ラジカット内用懸濁液2.1%について

- ①添付文書の用法に「第2クール以降は14日間のうち10日間投与する。投与期の後14日間休薬する。」と記載されているが、投与日は任意の10日間でよいのか。また、この用法となった経緯は何か。
②ボトル開封前は冷所保存だが、その理由は何か。

A：

- ①任意の10日間でよい。(例①：10日間連続で投与し4日間休薬。例②：月～金の5日間投与し、土日の2日間休薬を2週間で計10日間投与。)

ラジカット点滴静注のALSに対する用法に準じて、内用懸濁液の用法を設定した。(第1クールは入院で点滴を想定、第2クール以降は外来で14日間連日の点滴は現実的でないた

め、平日の月～金5日間×2で計10日間などの使用を想定している。)

②分解が進んでしまうため開封前は冷所保存が必要。開封後14日間の常温での安定性は確認できているため、常温で問題なし。

問い合わせ先：田辺三菱製薬

Q：アポハイドローション20%について

- ①多汗症の方は、脇への使用を希望する場合が想定される。臨床試験は実施しているか。
- ②12歳未満の小児を対象とした臨床試験は実施していないと記載があるが年齢制限等はあるか。

A：

- ①脇への臨床試験は実施していない。拭き取りにくいなどの要因もあり血中濃度が上昇する可能性があるため、使用しない方が良い。
- ②添付文書上の制限はない。実際に12歳以下に投与している症例もある。

問い合わせ先：久光製薬

Q：サムチレール内用懸濁液15%について 治療と予防で、1日量は同じで用法が異なっているのはなぜか。

A：臨床試験の組み方の関係である。治療の試験、予防の試験は別々の時期におこなっている。なお、アトバコン750mg×2、1500mg×1ではどちらも血中濃度は有効域であることが分かっている。また、副作用に差がある結果はない。

治療に関しては海外推奨用法を参考にして、1日2回となった。予防に関しては、1日2回の試験は組んでおらず、また予防なので1日1回の方が服用しやすいと考えられ、1日1回となっている。

問い合わせ先：グラクソ・スミスクライン

Q：ジクトルテープについて

- ①血中濃度が安定するまで内服を上乗せする使い方はどうか。
- ②消化器症状の発現のリスクはどの程度か。

A：

- ①定常状態に到達するまで7日程かかるため、頓用などで内服を併用する事例もある。
- ②血中濃度を上げすぎないため、内服よりはリスクが低いという認識でよいと思われる。

問い合わせ先：久光製薬

Q：レクビオ皮下注について

同様のPCSK9阻害薬であるレパーサ皮下注との使い分けはあるか。また、効果や副作用の違いはあるか。

A：現状、医師の使い分けの判断は特にない。患者の負担金額や投与間隔、自己注の可否について相違があるため、使い分けてもらえばよいのではないか。また、効果の直接比較は現状していないが、レパーサからレクビオへの切替でLDLコレステロールの値に大差はなく、副作用にも大きな違いはない。

問い合わせ先：ノバルティスファーマ

Q：ビンゼレックス皮下注について

IL-17標的抗体製剤ではカンジダが出やすいのか。

A：ビンゼレックスに限らず一般的にIL-17標的抗体製剤ではカンジダは出やすい。今回はIL-17Aに加え、IL-17Fも標的としているため、そのような副作用発現リスクはより高いと思われる。

問い合わせ先：ユーシービージャパン

Q：アセチルシステイン内用液17.6%について

- ①本剤の希釈にあたり、味をマスクしやすい飲料や、避けた方がよい飲料はあるか。
- ②添付文書に「開封後・希釈後の残液は使用しないこと」とあるが、1回ごとに残液を廃棄しなければならないのか。
- ③製品のリキャップは可能か。

A：

- ①水やオレンジジュースよりも、コーラやサイダーなどの炭酸飲料の方が本剤の味をマスクしやすい。本剤のにおいは、ストローを使用

することで軽減されるとの報告がある。
②保存剤を使用していないため、基本的には残
破棄を推奨している。
③リキヤップ可能。

問い合わせ先：あゆみ製薬

Q：ジーラスタ皮下注について

外科の大腸癌でSIRB療法中の患者さんに
ジーラスタを予防投与している。1週間後の
外来採血で血小板数4.6万と血小板減少症の
副作用がみられた。どの程度で回復するか報
告はあるか。

A：1～5%未満で血小板減少の副作用があり、
ジーラスタ投与後2～3週間で回復するとい
う報告が散見される。

問い合わせ先：協和キリン

Q：カイプロリス点滴静注用について

Kd（週2）療法を再度実施することになった。
中止してから1年以上経過しているが、初回
投与量は20mg/m²で開始した方が良いのか？
継続として56mg/m²で良いのか。

A：副作用で中止しているのであれば初回投与
量で実施。それ以外であれば規定は無いので
施設判断で良い。

問い合わせ先：小野薬品工業

Q：ビロイ点滴静注用について

ビロイ単独投与時の制吐剤は、アロカリス点
滴静注、パロノセトロン点滴静注、デキサメ
タゾン注の3剤併用した方がよいか。

A：3剤併用し、さらにH1拮抗薬やオランザ
ピンの併用を適宜検討。

問い合わせ先：アステラス製薬

DI実例報告

公立置賜総合病院
TEL 0238(46)5000

Q：関節リウマチの治療でリウマトレックスを内服している方へ、コロナワクチンを使用したい。注意事項などあるか。

A：（リウマチ情報センターより）

基本的に新型コロナウイルスワクチンを接種する際に、関節リウマチや膠原病に関連する薬剤について服用、注射しているからワクチンを接種することができないということではなく、副反応が強くなることも知られていない。ただし、リウマチの治療薬は免疫抑制を起こすために、服用により新型コロナウイルスワクチンの効果を弱めてウイルスに対する抗体が十分作られない可能性があります。このためリウマチの治療薬をワクチン接種前後でどのようにするかについてはいろいろな意見がある。

（日本リウマチ学会より）

現時点ではステロイドや免疫抑制剤がこのワクチンにあたえる影響は十分にわかっていない。通常のワクチン接種の場合、免疫抑制剤やステロイドを中止・減量することはない。よって基本的には接種前後で免疫抑制剤やステロイドは変更せず継続すべきであると考える。ただし、リツキシマブ（商品名リツキサン）で治療している場合には、ワクチン接種の時期とリツキシマブの注射の時期との兼ね合いを考慮する必要がある。その他の免疫抑制剤やステロイドの治療についてワクチン接種の前後に具体的にどうするかについては、担当主治医と事前にご相談してほしい。

（アメリカリウマチ学会（ACR）COVID19ワクチン委員会より）

リウマトレックスはワクチン接種後の1週間は服用しない。

（メーカーより）

国内ではコロナワクチン接種後の投与について制限はない。Drの判断で処方頂きたい。

Q：爪白癬の塗り薬で鏡検を行わなくても処方できる薬剤はあるか。

A：採用薬では、ニゾラールローションやゼファート外用液（院外限定採用・ラミシール外用液）がある。適応は、足白癬とあり爪との記載は無いが、足の爪にも使用出来る薬剤である。添付文書に「鏡検又は培養等に基づき～」の記載も無い。薬効分類がニゾラールは「寄生性皮ふ疾患用剤」だが、近年発売されたクレナフリンは「その他の化学療法剤」であり薬価も非常に高い。

Q：セファゾリン点滴静注を小児に投与する際、滴下速度は成人より遅くする必要があるか。

A：（メーカーより）小児への投与にあたって用量の設定はあるが、滴下速度についての資料は無かった。

（小児用ガイドより）30分かけて投与。

Q：エンタビオで治療している患者に腰椎麻酔下での手術を予定している。手術にあたって休薬など必要か？

A：（メーカーより）手術に関する休薬については添付文書上定めていない。

手術を控えている患者に対してエンタビオを休薬する事で感染のリスクが下がったとの報告と休薬せずとも影響は無かったとの報告があった。休薬の要否については医師に委ねることになるが、もし休薬する場合は、半減期より1～2週間前からの休薬を推奨する、とのこと。

Q：ヘパリンNa注1万単位を持続点滴で使用している患者にショットで急速投与した。その際、体内動態、最大血中濃度、凝固能はどうなるか。また、対応する事などあるか。

A:(インタビューフォーム・メーカーより返答)
ヘパリンの用法においては間歇注射で用いることもあるためショット自体は問題にならない。ヘパリンの抗凝固作用を急速に中和する必要がある場合はプロタミン硫酸塩を用いる。
(静脈内間歇注射法)

1回5,000～10,000単位を4～8時間毎に静脈内注射する。注射開始3時間後から、2～4時間毎に全血凝固時間又はWBAPTTを測定し、投与前の2～3倍になるようにコントロールする。

参考：臨床試験で確認された血中濃度

・静注

健常人6名にヘパリンナトリウム注射液5,000単位を静注し、経時的に採血して、その血中濃度の時間的推移を、合成基質S-2222を用いて測定すると、急速にヘパリン濃度は上昇し、投与後10分より次第に減少して、投与後40分にはおよそ半減した。

・外国人データ：静注

ヒトにおける消失半減期は1.5時間である。
投与量100単位/kg 静注で半減期56±3.5分、
投与量200単位/kg 静注で半減期96±5.1分、
投与量400単位/kg 静注で半減1回152±5.0。

Q：プロナンセリン錠（先発・ロナセン錠）のCP換算はあるが、テープ剤の換算について知りたい。

A：プロナンセリン経皮吸収型製剤：等価換算値20（プロナンセリン錠：4）

CP換算（定義）chlorpromazine100mgと等価である投与量。

Q：プレガバリン服用中の方にタリージェが処方となった。同効薬だが併用は問題ないか？

A：ミロガバリン（タリージェ）、プレガバリンは、ともに電位依存性カルシウムチャネル

$\alpha 2\delta$ サブユニットに対するリガンドで、末梢神経障害性疼痛治療剤である。 $\alpha 2\delta$ リガンドは、シナプス前終末においてカルシウムイオンの流入を減少させ、興奮性神経伝達物質の放出を抑制することで痛みの緩和をもたらすと考えられている。2剤とも作用機序は同じ。過量投与が危惧されるため、メーカーとしては推奨していない。

2剤での併用のデータも無し。タリージェと併用のデータがあるのは、NSAIDsとトラマドールやトアラセット。

Q：EPAのサプリメントを内服している方が手術を行う際、何日間の休薬が必要か。

A：サプリメントは医薬品と違い、臨床データがないため含量や吸収、効果は不明。サプリメントの販売メーカーへ確認したところ、主治医の判断によるが、「アメリカ麻酔科学会」にて休薬は14日とあるため、メーカーとしては10～14日前より休薬をすすめている。手術を控えた方からの問合せも多いと。（医薬品にもあるEPA、オメガ-3は添付文書上、7～10日休薬となっている。）

Q：タイサブリ注は冷所保存である。3時間ほど室温での保管となった。安定性の問題はないか？

A：光安定性試験、加速試験より、箱から出している状態では80時間（約3.3日）は安定性に問題はない。開封し、ガラス瓶の状態で保管した場合には光安定性試験により80時間で凝集体及び抵等電点イソフォームの増加が認められた。また、タイサブリ注は「冷蔵庫から取り出したら投与前に室温に戻すこと」と添付文書記載もある事から、「3時間程度の短時間であれば希釈も行っていないため問題なし。なお、希釈後は直ちに投与するか、又は2～8℃の冷蔵庫で保存した場合は8時間以内に使用する。」

Q：ビーフリード1000mLの開通を忘れ、下

室700mLのところ約200mLを残した時点で気付いた。投与中の製品を開通後、残りを投与したが、メーカーで推奨している対処は？

A：メーカーでは、開通忘れに気付いたら、ただちに投与を中止し（残液は廃棄）新しい製品を開通し投与する。医師の判断によるが、残液の量によって500mLの製品に変更して投与したとする報告もある。

- ・K値は、1日100mEqまでであり、上室・下室混合時20mEq/LのためKCLやKを含む補液を他に使用していなければ問題はないと考えられる。（下室のみ投与してしまっても問題ないように上室・下室の電解質は設計されている。）
- ・注意が必要な事として、末梢からの投与で血管痛が起こらない浸透圧が3までである。ビーフリードは混合時に浸透圧3となり、混合前の上室は浸透圧4である。ビーフリード自体、血管通や静脈炎の頻度は5%以上で発現する薬剤でもあり、下室の残液が少ないところに上室を開通すると浸透圧は3より高くなると考えられる。また、下室700mLにブドウ糖が約75g入っておりブドウ糖濃度も約10.7%と高い。浸透圧やブドウ糖濃度から、血管痛、静脈炎のリスクに注意が必要となる。

Q：降圧剤で、ARBでは投与開始し、降圧効果が定常となる日数について文献や論文などある。(例えばアジルサルタン7.5日、オルメサルタン20日など。) Ca拮抗剤でも該当するような論文はないか？

A：Ca拮抗剤として具体的に記載のある文献や論文について調べたが無し。Ca拮抗剤のメーカーに問い合わせたところアムロジピンのみ返答あり。

アムロジピン「臨床第1相試験」のデータより、プラセボ2例、6例に1日1回毎朝食後30分後に150mLの水とともに14日間連続して経口投与した。連続投与時毎回投与後24時間の血清中濃度は6～8日目でほぼ定常状態(1.78～2.16μg/ml)に達し、その値は投与

初日の投与後24時間値である0.60ng/mlの約3倍であった。その後血清中濃度の蓄積傾向は認められなかった。アムロジピン降圧効果が定常状態となるのは服用後6～8日目と考えられる。

Q：①シクレスト錠を服用している方にノルアドレナリン投与を検討。シクレスト錠にアドレナリンは禁忌とされているがノルアドレナリンは問題ないか。②シクレスト中止後、効果が無くなる時間は？

A：①添付文書上、シクレスト錠の禁忌、併用禁忌にノルアドレナリンの記載はなし。禁忌に「アドレナリンを投与中の患者」とあり。理由は、アドレナリンは、アドレナリン作動性α、β受容体の刺激剤であり、本剤のα受容体遮断作用によりβ受容体刺激作用が優位となり、血圧低下作用が増強されることによって重篤な血圧降下を起こす可能性が否定できることから、他の抗精神病薬と同様に設定されている。ノルアドレナリンは抗精神病薬との併用で血圧反転が起こる可能性が低いため、アドレナリンより安全と考えられる。（アドレナリン：β>α ノルアドレナリン：α>>β）

②添付文書、IFより

半減期は、単回投与で 17.1 ± 6.1 。最終投与後、24時間までのデータにおいて1日2回反復投与時の定常状態における血漿中アセナピン濃度推移より、24時間後には効果は消失するとみられる。

アセナピン5mg単独投与時のAUC(0→∞)と、5mg1日2回反復投与時の1投与間隔のAUC(0-12hr)は同程度であり、アセナピン反復投与による蓄積はないものと考えられる。

Q：①クリンダマイシン1日2400mg1日2回投与。通常1200mgだがよいか。②1回1200mgとなるが、溶解する液量について。

A：①難治性又は重症感染症には症状に応じ

て、成人で1日2400mg（2～4回に分けて）まで增量可である。②添付文書より、1回1200mgでは生食200～500mLに溶解して投与する。液量を減らして検討した報告はない。また、クリンダマイシンは、急速静注を行い心停止したとする報告があるため、1回1200mgであれば1～2時間かけて投与する必要がある。

Q：透析患者に十味敗毒湯の処方を予定している。透析患者への使用では用量の調整等必要か。

A：（メーカーより返答）

十味敗毒湯についてはカンゾウが含まれるため、偽アルドステロン症が副作用としてあり、Kの排泄が促進される。本剤による透析患者への影響は少ないと考えられるため用量は通常量でよいと思われる。

Q：院外限定採用のデノタスチュアブルを使用中の方が入院した。代替えは？

A：

デノタスチュアブルの用法用量：1回2錠1日1回
・2錠（1日量）：沈降炭酸カルシウム（Caとして610mg）/コレカルシフェロール（天然型ビタミンD3製剤・400IU）/炭酸マグネシウム（Mg30mg）
〈カルシウム及びビタミンDの経口補充例〉
当院採用薬
【カルシウム製剤】毎日少なくとも500mg
アスパラCa錠200mg 1回1錠1日3回
乳酸カルシウム水和物 1回1g1日3回
【活性型ビタミンD3】（天然型ビタミンD3の医療用医薬品の販売は無い。）
アルファロールカプセル
1回0.5～1.0μg 1日1回
エディロールカプセル
1回0.5～0.75μg 1日1回
ロカルトロール
1回0.25μg 1日2回

※腎機能障害患者では、ビタミンDの活性化が障害されているため、活性型を投与する。症状にあわせて投与量は適宜調整いただく。

※デノスマブ：ランマーク、プラリア

- ・ランマークは、低Ca血症の報告（2012年安全性速報）がありCa剤やビタミンD3の投与は必須となる。
- ・プラリア（骨粗鬆症治療）は、もともとCa値が高い症例もあるため、その場合は必須ではない。

Q：調剤薬局よりジクトルテープとケトプロフェンテープの併用について問い合わせあり。

A：ジクトルテープ（成分・ジクロフェナク）：腰痛症、肩関節周囲炎など鎮痛消炎の他、各種癌における鎮痛の適応をもつ。ジクロフェナク経口剤に匹敵する全身曝露量となることから、経口剤と同様の注意を要する薬剤である。一般的な湿布剤とも異なる位置づけの薬剤である。

全国的には、ジクトルテープとケトプロフェンテープの併用が認められているが、山形県は厳しく、社保では認められているが、国保では認められていない。患者さんの保険状況を確認し、検討してはどうか。

Q：他施設より持込み入院の方で、グリメピリドとミチグリニドが併用しており、当院で同様に処方したところ、併用禁忌とアラートがあった。（オーダーは乗り越えられる）併用出来ないのか？

A：ミチグリニド：速効型インスリン分泌促進薬、グリメピリド：SU剤
(ミチグリニド添付文書の「重要な基本的注意」より)

本剤は、速やかなインスリン分泌促進作用を有する。その作用点はスルホニル尿素系製剤との相加・相乗の臨床効果及び安全性が確認されていないので、スルホニル尿素系製剤とは併用しないことの記載あり。

メーカーより、禁忌への記載はないが事実上

は併用しない。

(当院のDI検索システムでも、併用禁忌扱いとなっているためアラート表記有)

Q：ケタラールを小児へ投与した際、血管外漏出あり。対応について。

A：ケタラールの血管外漏出における特別な対応は無いため、血管外漏出時の一般的な対応として(当院:ガベキサートメシル酸塩、ナファモスタット静脈炎の対処についての資料より)直ちに投与中止→患肢挙上→患部冷却（アイスパック等で冷却）→ステロイド軟膏塗布（デルモベート軟膏）→改善ない場合は皮膚科受診

Q：ジクロフェナク坐剤25mgを本来、肛門内に挿入するところを誤って、膣内に挿入した。また、取り出すことが出来ないため経過観察としている。起こり得る有害事象や対応などあるか。

A：メーカー（日新）より返答。ジクロフェナク坐剤を膣内に挿入した際のデータはない。膣内は直腸内と比べ、薬の吸収部位が少ないので、時間経過で融解して垂れてくること、薬効が大きく落ちることが考えられる。有害事象がでることはあまりないと思われるが、経過観察をお願いしたい。

Q：ロキソプロフェンナトリウムテープの用法について、1日1回患部に貼付となっているが、1度に貼る枚数の上限などはあるか？

A：(IF臨床成績より)

- ・0.5、1、2% LX-Aは、1枚（膏体10g/140cm²）中にロキソプロフェンナトリウム無水物としてそれぞれ50、100、200mg含有する貼付剤をさす。

1) 単回貼付試験：健康成人男性20例を対象とした0.5、1、2% LX-Aの単回貼付試験（背部に4枚12時間貼付）の結果、貼付部位、全身の自他覚症状及び臨床検査値のいずれにおいても副作用はみられず、安全性は良好と考えられた。

えられた。

2) 反復貼付試験：健康成人男性6例を対象として実施された2% LX-Aの6日間反復貼付試験（背部に1回2枚、1回12時間、11回貼付）の結果、貼付部位、全身の自他覚症状及び臨床検査値のいずれにおいても副作用はみられず、安全性は良好と考えられた。

(メーカーより返答)

ロキソプロフェンNaテープの同部位への使用枚数については特に規定していない。データもIFの臨床成績以外では特に無い。

Q：アコファイド錠の添付文書、効能又は効果に関する注意より、上部消化管内視鏡検査等により、胃癌等の悪性疾患を含む器質的疾患を除外すること。とあるが、胃癌の患者に処方すると査定の対象になるか。

A：(メーカーより返答)

機能性ディスペプシア(FD)と胃癌をはじめとした悪性疾患を含む器質的疾患は並存できないため査定の対象となる。

(IFより解説)

FDは上腹部症状を説明しうる原因となりそうな器質的疾患が確認されないと定義されている。そのため、十分な問診（病歴・病状への質問）の他、投与直前である必要はないものの、検診結果等を含め、上部消化管内視鏡検査、X線検査、腹部超音波検査、便潜血等の検査により、胃癌等の悪性疾患を含む器質的疾患が無いことを事前に確認することが、FD診断のために重要である。

Q：オレンシア皮下注を投与している患者が不活化ワクチン（シングリックス）を接種する場合、同日でも問題ないか。

A：(メーカーより返答)

生ワクチンを接種する場合はオレンシア投与中、および投与中止後3ヶ月以内は接種しないこと。と記載しているが、不活化ワクチンについてはそういった規定が無く、同日でも問題ない。

Q：パム静注（0.5g/管・有機リン剤中毒解毒剤）の投与量だが、添付文書には、「1回1gを静脈内へ徐々に注射、適宜増減」との記載のみ。①1g/2管/hrで持続投与の症例の1日最大用量について。②他施設で投与した日数について症例報告があれば教えて欲しい。③唾液分泌が非常に多いが、改善策はあるか？

**A：①急性低毒性性有機リン系農薬中毒の治療指針より（特に解毒剤PAMの投与を中心に）
継続投与：投与後1時間経過しても十分な効果が得られない場合、再び初回（1～2g）**

と同様の投与を行う。それでも筋力低下が残る時は、慎重に追加投与を行う。0.5g/hrの点滴静注により1日12gまで投与可能。

②症例報告では、最長で44日間使用した報告がある。用量は1日1g～6g（詳細不明）で使用していた。有機リン系の体内蓄積が数日～数週間に及ぶため投与日数はまちまちである。

③有機リン系中毒によるアセチルコリン蓄積のため唾液分泌が多くなる。中毒症状が改善すれば治ると考えられる。唾液過多による脱水に対して適宜補液を行うよう対処する。

令和6年度山形県病院薬剤師通常総会

一般社団法人山形県病院薬剤師会（山口浩明会長・山形大学医学部附属病院）は令和6年6月1日（土）、山形テルサ（山形市）において、令和6年度一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会を開催しました。山口会長挨拶に続いて、早速、議長に赤尾眞氏（米沢市立病院）を、副議長に中村雄太郎氏（山形済生病院）を選出し、議事に入りました。協議は、令和5年度事業報告、同決算報告、令和6年度活動計画案、同予算案が審議され、執行部の原案通り賛成多数で承認されました。また、理事退任に伴う理事選任について、退任される理事（敬称略）萬年琢也、松田隆史、長岡一郎、畠山史朗に代わり、新理事（敬称略）大熊良和、倉本 美紀子、高橋和枝、遠藤清香、庄司喜恵、佐藤一真が賛成多数をもって承認されました。

ひき続き、令和5年度日本病院薬剤師会功労賞を受賞された大石玲児氏（三友堂病院）、令和5年度保健衛生関係功労者山形県知事表彰を受賞された伊藤秀悦氏（篠田総合病院）、令和5年度薬事功労者山形県知事感謝状を受賞された萬年琢也氏（山形県立新庄病院）、松田隆史氏（公立置賜総合病院）が紹介され、大石玲児氏、伊藤秀悦氏、松田隆史氏が挨拶されました。また、令和5年度山形県病院薬剤師会感謝状の対象となられた先生、永年会員（25年）表彰の対象となられた先生、第3回山形県病院薬剤師会学術大会にて優秀発表賞を受賞された先生、令和5年度優秀論文賞にて最優秀賞・優秀賞を受賞された先生が紹介されました。

令和6年度一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会

開催日時：令和6年6月1日(土) 14時30分～15時30分

場 所：山形テルサ 大会議室

次 第

1. 開会の辞

2. 会長挨拶

3. 議長選出

4. 議事

1) 協議事項

- (第一号) 令和5年度事業報告
- (第二号) 令和5年度決算報告
- (第三号) 令和5年度会計監査報告
- (第四号) 令和6年度活動計画(案)
- (第五号) 令和6年度活動予算書(案)
- (第六号) 役員退任に伴う役員選任について

5. 表彰

6. その他

7. 閉会の辞

以上

令和5年度事業報告

令和5年度は、一般社団法人山形県病院薬剤師会が創立されてから55周年を迎える節目の年であり、令和5年11月25日にホテルキャッスル（山形市）において、創立55周年記念式典ならびに祝賀会を開催した。併せて、創立55周年記念誌「紅藍」を発刊した。

役員改選に伴い、常置委員会の追加・一部委員会の名称変更を行うとともに、病院薬剤師確保特別委員会、DX推進特別委員会、U40特別委員会の3つの特別委員会を設置し、幾つもの新しいチャレンジを経験した1年となった。

令和5年9月30日には、入職後3年以内の新入職員を対象とした山形県病院薬剤師会新人研修会を開催し、入職後早期からキャリアプランを考える機会を提供した。

令和4年から新たな開催様式に変更した山形県薬学大会を、令和5年10月15日に一般社団法人山形県薬剤師会と共同開催した。また、令和3年から開始した山形県病院薬剤師会学術大会は令和5年12月3日に第3回目を開催した。また、学術論文への掲載に対応できるよう、各組織・役職についての英語表記を定めた。

令和6年1月27日には、地域医療における病院・診療所一薬局間の連携推進に向け、山形県薬剤師会と地域連携に関する懇談会を実施した。

喫緊の課題となっていた病院薬剤師確保の問題について、令和5年3月29日、厚生労働省が都道府県ごとの薬剤師の偏在指標を公表した。山形県の病院薬剤師偏在指標は0.60であり、全国で3番目に低い数値であった。病院薬剤師確保特別委員会が中心となって、県内の病院薬剤師の確保・定着について集中した議論を実施し、令和5年7月31日には、山形県庁を訪問し、山形県健康福祉部と現状を共有した。令和5年10月17日には、山形グランドホテルにて「山形県における病院薬剤師不足問題を語るシンポジウム」を開催し、県民に病院薬剤師不足について知っていただくとともに、薬剤師確保の一つの方策として山形県内における薬学部の設置を提案した。令和5年12月28日には山形県知事に薬学部設置に係る要望書を提出した。令和6年に入り、厚生労働省の令和6年度薬剤師確保のための調査・検討事業に応募し、本県が採択されている。第8次山形県保険医療計画の作成段階においても山形県との協議を重ね、2次医療圏毎の具体的な薬剤師の増加目標が記載されることとなった。

▼会員数

正会員	381名
特別会員	19名
合計	400名

準会員	14名
賛助会員	60名

▼施設数および正会員数（ブロック別）

	庄 内	村 山	最 上	山 形	置 賜	総 数
施 設 数	1 2	1 3	4	1 8	1 3	6 0
会 員 合 計	7 8 名	4 1 名	1 9 名	1 8 6 名	5 7 名	3 8 1 名

令和6年3月31日現在

▼総会・会議 等

令和5年度

2023年04月17日(月) 第1回常務理事会

2023年04月19日(水) 第1回理事会

2023年04月23日(日) 令和5年度東北地区調整機構総会（第58回会議）

2023年05月20日(土) 第2回理事会

2023年05月20日(土) 令和5年度

一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会

2023年06月17日(土) 第67回日本病院薬剤師会定期総会

2023年07月05日(水) 第2回常務理事会

2023年07月11日(火) 第3回常務理事会

2023年07月24日(月) 第4回常務理事会

2023年08月23日(水) 第5回常務理事会

2023年08月27日(日) 認定実務実習指導薬剤師養成講習会

2023年09月04日(月) 第3回理事会

2023年10月06日(金) 第1回合同役員懇談会

2023年10月17日(火) 山形県における病院薬剤師不足問題を語るシンポジウム

2023年10月21日(土) 日本病院薬剤師会地方連絡協議会

2023年11月15日(水) 第6回常務理事会

2023年11月25日(土) 創立55周年記念式典・記念祝賀会

2023年12月03日(日) 第3回山形県病院薬剤師会学術大会

2023年12月22日(金) 第4回理事会

2024年01月09日(火) 第5回理事会（持ち回り）

2024年02月17日(土) 第68回日本病院薬剤師会臨時総会

2024年03月13日(水) 第7回常務理事会

2024年03月18日(月) 第6回理事会

▼研修会 令和5年度研修会開催一覧（主催・共催・後援）

- 2023/06/15(木) Innovative Pharmacist Seminar in Yamagata
- 2023/06/18(日) 2023年度第1回山形県がん化学療法セミナー
- 2023/06/22(木) Migraine Web Seminar for Pharmacist
- 2023/07/01(土) 第13回庄内薬剤師糖尿病 Web 研修会
- 2023/07/21(金) 第22回山形COPD研究会
- 2023/07/22(土) ~ 23(日)医療薬学フォーラム2023/第31回クリニカルファーマシーシンポジウム
- 2023/08/02(水) やまがた薬藻連携セミナー
- 2023/08/27(日) 2023年度第2回山形県がん化学療法セミナー
- 2023/09/10(日) 第5回山形糖尿病スキルアップセミナー
- 2023/09/23(土) 第5回第33回山形県緩和医療研究会
- 2023/09/30(土) 令和5年度山形県病院薬剤師会新人研修会
- 2023/10/05(木) 病院薬剤師研究推進セミナー
- 2023/10/07(土) 令和5年度第1回山形県病院薬剤師会
感染対策講習会
- 2023/10/12(木) 明日の化学療法を考える
- 2023/10/15(日) 第63回山形県薬学大会
- 2023/10/23(月) 第1回やまがた精神科薬物療法STEP UPセミナー
- 2023/11/07(火) 2023年度第1回山形県病院薬剤師会漢方研修会
- 2023/11/12(日) 2023年度第3回山形県がん化学療法セミナー
- 2023/11/30(木) 1st DX Challenge Seminar in YAMAGATA
- 2023/12/01(金) 2023年度第2回山形県病院薬剤師会漢方研修会
- 2023/12/10(日) 2023年度第4回山形県がん化学療法セミナー
- 2024/01/09(火) 2023年度第3回山形県病院薬剤師会漢方研修会
- 2024/01/12(金) 山形県病院薬剤師会 診療報酬研修会
- 2024/01/30(火) 令和5年度山形県糖尿病療養指導・薬学Web研修会
- 2024/02/02(金) 令和5年度山形県病院薬剤師会医療安全研修会
- 2024/02/03(土) 2023年度第5回山形県がん化学療法セミナー
- 2024/02/10(土) 山形県病院薬剤師会庄内エリア研修会
- 2024/02/16(金) 2023年度第4回山形県病院薬剤師会漢方研修会
- 2024/02/27(火) 山形県病院薬剤師会腎セミナー
- 2024/02/29(木) Online Event U40 Pharmacist meeting
- 2024/03/09(土) YAMAGATA Pharmacy Director Seminar 2024
- 2024/03/09(土) 令和5年度山形県病院薬剤師会
第1回周産期薬物療法研修会
- 2024/03/15(金) 2023年度第5回山形県病院薬剤師会漢方研修会
- 2024/03/19(火) 2nd DX Challenge Seminar in YAMAGATA
- 2024/03/25(月) 第2回やまがた精神科薬物療法STEP UPセミナー
- 2024/03/26(火) Diabetes Pharmacist Seminar in 山形

計36回

▼委員会活動報告

委員会名	広報委員会
委員 ◎：委員長	◎板垣 有紀、佐藤ゆかり、佐藤 一真、佐藤 拓也、川井 美紀、有川 真理
R 5年度 活動報告	<p>【委員会開催】 <ZOOMによるオンライン開催> ・2023年度第1回広報委員会 2023年7月25日(火) ・2023年度第2回広報委員会 2024年3月21日(木)</p> <p>【機関紙発刊】 ・県病薬やまがた広報誌 No.34 2023の発刊</p> <p>【その他】 ・山形県健康福祉部発刊の『山形県病院概要』内の「病院薬剤師の魅力」原稿作成</p>
R 6年度 活動計画	<p>【機関紙発刊】 ・県病薬やまがた広報誌 No.35 2024の発刊</p> <p>【活動・情報発信】 ・県病薬のSNSのアカウントを作成し、会の活動や情報をタイムリーに発信し、魅力ある山形県病薬をアピールする。</p>

委員会名	学術委員会
委員 ◎：委員長	◎小倉 次郎、菅原 拓也、石川 大介、海藤真理子、小島 俊彦、今田 良樹、 田中 大輔、中村 新、服部 豊、樋口 安耶
R 5年度 活動報告	<p>●委員会開催</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年6月27日(火)19:00-20:00 @ ZOOM会議 2. 令和5年12月3日(日)10:40-11:10 @ 山形テルサ 3. 令和6年3月27日(水)19:00-19:30 @ ZOOM会議 <p>●学術委員会ポータルサイトの運営 継続して臨床研究に関する支援等を行っている。</p> <p>●病院薬剤師研究推進セミナー in 山形 日時：令和5年10月5日(木)18時30分～19時40分 会場：ZOOM配信 【Special Lecture 1】18:40～19:00 座長：山形大学医学部附属病院 薬剤部 小倉 次郎 先生 『これならできる症例報告！～基礎編～』 東北大学大学院 薬学研究科 准教授 菊地 正史 先生 【Special Lecture 2】19:00～19:40 座長：日本海総合病院 薬剤部 石川 大介 先生 『これならできる症例報告！～実践編～』 東北大学病院 薬剤部 薬剤主任 佐藤 祐司 先生</p> <p>●第3回 山形県病院薬剤師会学術大会 日時：令和5年12月3日(日)13:00～16:00 会場：ZOOM配信 【配信会場：山形テルサ】 学術発表：16演題 優秀発表賞： 『外来化学療法時間短縮への取り組み』 石川 大介 (日本海総合病院 薬剤部)</p> <p>●R 5年 山形県病院薬剤師会 優秀論文賞 最優秀論文賞： 『Cost-Effectiveness Analysis of Cyclin-Dependent Kinase 4/6 Inhibitor Palbociclib for Inoperable or Recurrent Breast Cancer.』 志田 敏宏 他 (山形大学医学部附属病院 薬剤部) 優秀論文賞(次点) 『吸入指導用吸気流速測定器をIn-CheckからIn-Check DIALに切り替える際の留意点.』 菅原 拓也 他 (山形市立済生館 薬局) 優秀論文賞(次々点) 『一包化調剤鑑査における錠剤鑑査支援システムの時間短縮効果.』 豊田 優 他 (山形大学医学部附属病院 薬剤部)</p> <p>●山形県病院薬剤師会学術委員会の活動紹介 ①病院薬剤師研究推進セミナー in 山形 令和5年10月5日(木) 『学術委員会による研究推進活動について』 小倉 次郎 (山形大学医学部附属病院 薬剤部) ②宮城県病院薬剤師会学術Web研修会 令和5年12月9日(土) 『山形県における病院薬剤師の研究活動支援と課題』 小倉 次郎 (山形大学医学部附属病院 薬剤部) ③千葉県病院薬剤師会 臨床研究倫理セミナー 令和6年1月24日(水) 『山形県における病院薬剤師の研究活動支援と課題』</p> <p>●学会発表・論文発表実績調査 令和6年3月7日(木)県内各施設に調査依頼。現在調査継続中。</p>

R 5年度 活動報告	<ul style="list-style-type: none"> ●山形県病院薬剤師会 各組織・役職の英語表記の策定 最終案作成済み。今年度から「認定・専門部会」(旧専門委員会)が立ち上がったが、定款が「専門委員会」のまま修正されていないため、定款修正後に英語表記についても確定予定。 ●県内学会の開催支援 <ul style="list-style-type: none"> ①医療薬学フォーラム2023／第31回クリニカルファーマシーシンポジウム 令和5年7月22日(土)、23日(日) ②第69回山形県薬学大会(山形県薬剤師会との共催) 令和5年10月15日(日)
R 6年度 活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ●学術委員会ポータルサイトの運営：通年 ●学術委員会の紹介活動：通年 ●病院薬剤師研究推進セミナー in 山形：7月ごろ ●第70回山形県薬学大会(山形県薬剤師会と共催)：9月ごろ ●第4回山形県病院薬剤師会学術大会：11月ごろ ●R 6年山形県病院薬剤師会 優秀論文賞：1月ごろ ●R 6年学会発表・論文発表実績調査：1月ごろ

委員会名	災害対策委員会
委員 ◎：委員長	◎萬年 琢也、佐藤 拓也、佐藤 遼、今橋 良太、大熊 良和、吉田 崇志、齋藤 順、小島 俊彦

R 5年度 活動報告	<p>豪雨災害をはじめとする自然災害が恒常化し、災害薬事への対応が度々求められるなか、新年早々に能登半島地震が発災した。この対応にあたり、山形県DMAT、山形県DPAT、日本赤十字社山形県支部救護班、国立病院機構医療班など様々な組織で、山形県病院薬剤師会に所属する多くの薬剤師が支援活動を行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症や能登半島地震災害への対応下にあり、災害対策委員会としての活動は行っていない。</p>
R 6年度 活動計画	<p>山形県では災害時に、県、保健所及び市町村が保健医療福祉活動の総合調整を適切かつ円滑に行えるよう、保健医療福祉活動本部における、被災地ニーズの把握、支援活動チームの派遣調整等に係る助言や支援を行う「山形県災害薬事コーディネーター」の委嘱を計画している。この期待に応えるべく、豪雨災害をはじめとする自然災害が恒常化しているなか、様々な種類の災害に対し、私たち病院薬剤師は減災のために平時から何をしておくべきか、そして発災時には何をすべきか、何ができるか等、災害薬事に係る知識や技能の習得の在り方について検討を進める。</p>

委員会名	医療安全推進委員会
委員 ◎：委員長	◎松田 隆史、足達 昌博、植松 聰志、石川 千尋、半田 貢康、小林 武志
R 5年度活動報告	<p>【会議】 「令和5年度 第1回山形県病院薬剤師会医療安全推進委員会」 日 時：令和5年10月5日(木)16:00～17:00 ZOOMによる配信 参加者：足達、植松、石川、半田、小林、渡邊、松田 協議事項：①令和5年度 医療安全研修会の開催について ②その他</p> <p>「2／2開催予定 医療安全研修会のリハーサル」 日 時：令和6年1月29日(月)17:00～ ZOOMによる配信 参加者：足達、植松、石川、半田、小林、渡邊、松田</p> <p>【研修会】 「令和5年度 医療安全研修会」 日 時：令和6年2月2日(金)18:00～19:30 ZOOMによる配信 テーマ：『医療安全に関する薬剤師の取り組み』 座 長：松田隆史（公立置賜総合病院） 発 表：15分（1人） 演題・演者：「薬剤師の医療安全への関わり」 植松 聰志（北村山公立病院） 「当院の医療安全対策と薬剤師の関わり」 松田 隆史（公立置賜総合病院） 「当院の医療安全対策事例と活動内容」 足達 正博（日本海総合病院） 「患者サポートセンターでの薬剤師の役割」 石川 千尋（山形県立中央病院） 「GRMを経験して学んだこと」 小林 武志（山形大学医学部附属病院） 50名を超える参加申し込みがあり、メインテーマに基づき、薬剤部内の業務に限定せず、院内での薬剤師の取り組みに焦点をあて、各施設から実際の取り組みについて発表して頂いた。ネットワークのトラブルで十分な質問の時間が取れなかつたが、具体的な薬剤師としての取り組みや施設内での活動を知ることが出来、医療安全を考える上で大変参考になったと思う。</p>
R 6年度活動計画	<p>令和6年度も医療安全をテーマした研修会を開催し、情報共有と意見交換を行い、医療事故防止対策を充実させていきたい。 県薬の医療安全委員会と連携を図り、調剤過誤報告やプレアボイド報告等に関する情報を共有し、医療事故防止策を相互にチェックできる体制を構築していきたい。</p>

委員会名	薬剤師業務委員会
委員 ◎：委員長	◎大川 賢明、水口 真知、宮崎 衛江、佐藤 貴大、大類あかね
R 5年度活動報告	新規で立ちあがった委員会として構想を巡らせてはおりましたが、結果として報告できる事項はありませんでした。
R 6年度活動計画	<p>本委員会は、総合的な業務改善を進めるに当たって、主として常に問題化されている薬剤師の人員不足を、タスクシフトという概念、連携の促進等の要素をどのように業務の中に組み入れ生かしていくかという命題を追求するものではないかと考えます。</p> <p>次年度は以下のようなタスクシフトの現況と問題点等を様々な視点から調査して参ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 有・非資格者の補充対策の取り組みから改善できる業務 2. 残業対策の現状 3. 増員を目指した業務拡大の構想 等

委員会名	薬学教育委員会
委員 ◎：委員長	◎市川 勇貴、阿部 一弥、押切佳代子、高橋 信明、菅原 拓也、小竹 美穂

R 5年度 活動報告	<p>【委員会】 令和5年11月17日 令和5年度第一回委員会開催 ・令和6年度実務実習マッチングについての報告 ・各施設での実務実習の現状を報告</p> <p>【アンケート】 ・東北地区調整機構 病院実務実習小委員会からのアンケート依頼への回答 ・Google formsを用いた実務実習アンケートの実施</p> <p>【実務実習マッチング】 ・令和7年度実務実習受け入れ施設アンケートの実施</p> <p>【東北地区調整機構合同会議への参加】 ・令和6年1月14日 ワークショップ企画運営小委員会・タスクフォース合同会議への参加 (押切・市川)</p>
R 6年度 活動計画	<p>【委員会の開催】 年間複数回の委員会を実施し、各施設における実務実習の現状や問題点を検討</p> <p>【指導薬剤師の育成】 認定実務実習指導薬剤師の育成とタスクフォースの育成</p> <p>【研修会の開催】 各施設の現状や問題点を話し合う研修会の開催</p>

委員会名	生涯研修委員会
委員 ◎：委員長	◎國井 健、板垣 有紀、高橋 和枝、須藤 将裕、黒田 晋平、竹屋 里恵

R 5年度 活動報告	<p>令和5年度 山形県病院薬剤師会 新人研修会 山形県病院薬剤師会に新規に入会した新入職員を対象とした研修会を実施した。</p> <p>研修内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本病院薬剤師会 生涯研修制度に関する講演 ●日病薬 専門・認定制度に関する講義 ●その他共催セミナー、グループワーク（輸液関連） <p>情報交換会の開催： 新型コロナウィルス感染症流行により集合形式による研修会開催・情報交換会を行えず、施設間の交流を図ることが困難な状況であった。5類移行したこともあり、入職後3年以内の新入職員を対象とし施設間の交流を図ることを目的として情報交換会を研修会終了後に実施した。(研修会会場とは別会場)</p>
R 6年度 活動計画	<p>令和6年度 山形県病院薬剤師会 新人研修会 昨年同様、山形県病院薬剤師会に新規に入会した新入職員を対象とした研修会を開催予定。</p> <p>研修内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本病院薬剤師会 生涯研修制度に関する講演 ●日病薬 専門・認定制度に関する講義 <p>昨年度実施した終了後アンケートの意見の中に、時間的・内容的に詰め込み過ぎとの意見があったので、今年度は少し軽めで計画予定。</p>

委員会名	地域医療連携委員会
委員 ◎：委員長	◎赤尾 真、齋藤 正子、海和 鳩、齋藤 順、大川 賢明、星 利佳
R 5年度 活動報告	<p>【委員会開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回会議Zoom：2023年9月22日（出席者：6人） ・2年任期中の事業計画を検討し、下記2つを計画する。 <ul style="list-style-type: none"> ①「地域医療連携優良事例集」を作成する ②地域医療・多職種連携の研修会を複数回企画する <p>【地域医療推進委員会懇談会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形テルサ2024年1月27日（当委員出席者：4人） ・山形県病院薬剤師会と山形県薬剤師会にて地域医療の薬薬連携推進をテーマに話し合いを持った。今後は定期的に山形県薬剤師会の任意メンバーと当委員会メンバーにて話し合いを持ち、お互いの業務内容を理解しながらより良い連携について検討していくこととなった。(詳細は報告書「地域医療推進委員会懇談会議事メモ」を確認ください。) <p>【その他】</p> <p>ラインワークスにて今後の活動について打ち合わせを持っているが、病院薬剤師が地域医療連携や病院間の連携にどのようにかかわることができるのかを知るためとして、様々な職種へアンケート調査を実施したいと考えている。対象は病院薬剤師、薬局薬剤師、地域のケアマネジャー、介護施設職員、訪問看護師などと考えている。</p>
R 6年度 活動計画	<p>次年度は活動実施の年として事業計画の2つを実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「地域医療連携優良事例集」を作成する：年度途中に会員向けに募集をかけて作成を検討する。 ②地域医療・多職種連携の研修会を複数回企画する：各地域において委員メンバーと協力し、各エリアの研修会や地区薬研修会と協力して開催したい。講師は連携をテーマに発表などをされている先生などをおよびしたいと考えている。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県薬との薬薬連携懇談会（仮名称）については県薬側で4月中に薬薬連携で問題点を洗い出し、それをもとに5月以降から定期的にzoomなどをもちいて会議を持つ予定であり、当委員会を県病薬の窓口として対応していく。 ・薬局・病院薬剤師や他職種等に対するアンケート調査については実施も含め検討継続していく。

委員会名	中小病院・療養病床・ 診療所委員会
委員 ◎：委員長	◎相馬 直記、鈴木 純一、田中 久美、高橋 尚史、横澤 大輔
R 5 年度 活動報告	<p>◇情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤管理サマリー（令和5年度改訂版） ・令和5年度中小病院薬剤師実践セミナー ・回復期における薬剤師のためのかかわり方ガイド ・ポリファーマシー対策の進め方（Ver 2.0） <p>◇「病院薬剤部門の現状調査」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度回答率：44.4%（山形県55.2%） 病床別では、199床以下：35.5%、特に療養型病院では、26.4%と低迷 総務課などと協力して回答してもらうよう声がけしていく <p>◇委員施設の人員確保状況および対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県の病院薬剤師偏在指標は、下位第3位 ・修学資金貸与制度、薬剤師派遣制度、インターンシップ ・東北ブロック学術大会シンポジウム <p>2024.03.12 オンライン委員会開催し、上記について検討した</p>
R 6 年度 活動計画	<p>以下の案件について引き続き検討していく</p> <p>◇情報共有</p> <p>◇「病院薬剤部門の現状調査」について</p> <p>◇委員施設の人員確保状況および対策について</p> <p><計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・LINE WORKSを利用して双方向に情報共有、情報収集を行う ・病院薬剤部門現状調査の回答率向上のための声がけ、支援を行う ・東北ブロック学術大会シンポジウムへの参加 ・中小病院向けのオンライン研修会などを企画

委員会名	認定・専門部会（がん領域）
委員 ◎：委員長	◎延川 正雄、金野 昇、茂木 佳子、五十嵐康郎、小林 由佳、西村 雅次、 小野 裕紀、齋藤 智美、貴田 清孝、安部 一弥

R5年度活動報告	<p>1. がん領域部門委員会の開催について</p> <p>(ア) 第1回委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 日 時：令和5年7月11日(火)18時00分～19時00分 ② 開催場所：web会議 ③ 出席者：松田副会長、委員9名（1名欠席） <ul style="list-style-type: none"> ・委員、活動メンバーの確認を行い、澤田広樹先生（山形大学医学部附属病院）に活動メンバーへの協力依頼を行い、了承を得た。 ・令和5年度事業計画について：山形県がん化学療法セミナー5回開催を決定。このうち第4回に都道府県がん診療拠点病院しての研修会と共に症例検討会を計画する。 ・がんセミナーは、昨年度参加費規定改定となったため、今年度も会員以外の薬剤師（保険薬剤師や県外の薬剤師）にも参加募集することを確認した。 ・部門委員会の連絡ツールにLINE WORKSを使用することを確認した。 ・山形県内のがん資格認定者の状況を知りたいとの話があり、後日部門長が確認してLINE WORKSで周知した。 <p>(イ) 第2回委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 日 時：令和6年2月15日 18時00分～19時10分 ② 開催場所：web会議 ③ 出席者：委員9名（1名欠席） <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度活動報告（山形県がん化学療法セミナー5回分） ・令和6年度活動計画について協議 ・部門委員について、任期は2年のため、令和6年度も引き続き同じ委員で活動することを確認した。 <p>2. 令和5年度がん化学療法セミナーの開催実績について</p> <p>(①) 第1回 支持療法（大鵬薬品）</p> <p>担当：東北中央病院、山形市立病院済生館 開催：2023年6月18日(日) 14:00～16:00 参加者：65名</p> <p>【第一部】 「当院における抗がん剤制吐療法について」 総合南東北病院 看護部 渡邊絵里子 先生 「当院での制吐療法について」 山形大学医学部附属病院 薬剤部 金野 昇 先生</p> <p>【第二部】 「薬剤師だからできる！がん化学療法副作用への取り組み～CINV対策を中心に～」 竹田総合病院 薬剤科 木本 真司 先生</p> <p>(②) 第2回 肺がん（中外製薬）</p> <p>担当：鶴岡市立荘内病院、日本海総合病院 開催：2023年8月27日(日) 14:00～16:00 参加者：48名</p> <p>【特別講演Ⅰ】 「肺がんの最新治療Ⅰ Driver遺伝子変異陽性進行肺がんの治療」 山形県立中央病院 呼吸器内科 野川ひとみ 先生</p> <p>【特別講演Ⅱ】 「肺がんの最新治療Ⅱ Driver遺伝子変異陰性進行肺がんの治療」 山形県立中央病院 呼吸器内科 日野 俊彦 先生</p> <p>(③) 第3回 悪性リンパ腫（日本化薬） ※講師の都合で10月→11月開催へ</p> <p>担当：山形大学医学部附属病院 開催：2023年11月12日(日) 14:00～16:00 参加者：35名</p>
----------	---

R 5 年度 活動報告	<p>【特別講演Ⅰ】 「血液がん患者へのかかわり～入院治療から外来治療への移行について」 山形大学医学部附属病院 薬剤部 白井 英和 先生 「血液がんの外来化学療法について」 山形大学医学部附属病院 内科学第三講座 講師 伊藤 巧 先生</p> <p>【特別講演Ⅱ】 「悪性リンパ腫 診断と治療～最近の話題～」 東北福祉大学健康科学部保険看護学科 教授 石澤 賢一 先生</p> <p>④ 第4回 症例検討会（グループディスカッション） 担 当：県立中央病院、県立新庄病院 サポートとして済生病院 当日協力：活動メンバー 開 催：2023年12月10日（日） 13:00～16:00 参加人数：20名 テーマ：「がん患者の症状アセスメントと適正な薬物療法を理解しよう」</p> <p>⑤ 第5回 曝露対策（東和薬品） 担 当：公立置賜総合病院、米沢市立病院 開 催：2024年2月3日（土） 14:00～16:00 参加人数：34名</p> <p>【特別講演Ⅰ】 「経口オピオイドの携帯に関する実態調査～化学療法センター通院患者を対象に～」 公立置賜総合病院 副看護師長 竹田美和子 先生 「当院の曝露対策と現状と課題」 公立置賜総合病院 薬剤部 主任 安部 一弥 先生</p> <p>【特別講演Ⅱ】 「職業性曝露対策の基本とメディカルサーバイランスの実践」 国立病院機構仙台医療センター 外来化学療法主任 鈴木 訓史 先生</p>
R 6 年度 活動計画	令和6年度事業計画について：山形県がん化学療法セミナーを5回開催。このうち第4回に都道府県がん診療拠点病院での研修会と共に症例検討会を計画する。

委員会名	認定・専門部会 (緩和領域)
委員 ◎：委員長	◎小林 由佳、阿部美佐緒、志田 敏宏、鈴木 麻友、寺崎 敦子、中村 新
R5年度活動報告	<p>1 生涯研修委員会の新人研修会における「各専門・認定薬剤師制度について」への講義への協力</p> <p>2 がん領域部門の第4回山形県がん化学療法セミナーにおける、ケーススタディー症例の提示およびグループワークへの協力</p> <p>3 緩和領域部門の長期的活動計画の検討</p> <p>4 令和6年度活動計画の検討</p> <p>令和6年3月28日に令和5年度第1回緩和領域部門委員会を開催し、上記3、4についての検討を行った。</p>
R6年度活動計画	<p>1 緩和薬物療法に関する研修会の開催 年2回開催予定 平日の夜に1時間半程度で1回、休日の午後に2時間程度で1回の計2回</p> <p>2 アンケート調査内容の検討及びアンケート調査の実施 会員等の緩和領域に関するニーズを把握し、令和7年度以降の活動計画へ反映できるようアンケート調査内容を検討し、年2回の緩和薬物療法に関する研修会参加者を対象にアンケート調査を実施。</p> <p>3 長期的視点で、在宅緩和ケア普及・啓発に向けた連携促進のための研修会等の企画・開催や地域住民への緩和ケアの普及啓発に関する講演会の企画・開催、緩和薬物療法を目指しており、段階的に検討を進めていく。</p>

委員会名	認定・専門部会 (感染制御領域)
委員 ◎：委員長	◎石山 晶子、五十嵐 徹、相馬 直記、関口 徳志、大熊 良和、小林 正人
R5年度活動報告	<p>以下の部会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度第1回感染制御領域 部会 <p>日 時：2023年8月4日(金)17:30～18:30 場 所：web 参加人数：部員6名</p> <p>以下の講習会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度 第1回山形県病院薬剤師会 感染対策講習会 <p>日 時：2023年10月7日(土)14:00～16:10 場 所：山形県立中央病院 2階 講堂 参加人数：薬剤師 22名</p> <p>【一般演題】『当院における抗菌薬の使用量調査およびアンチバイオグラムの作成』 寒河江市立病院 薬局 田中 久美 先生</p> <p>【コンサルテーション演習】『繰り返す複雑性尿路感染症の60歳代女性』『高熱と悪寒発現により救急搬送された75歳女性』 山形県立中央病院 感染症内科・感染対策部長 阿部 修一 先生</p>
R6年度活動計画	<p>以下の講習会を開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 2024年8月31日 第1回感染対策講習会 2024年10～11月 第2回感染対策講習会 <p>上記に合わせて適宜部会を開催予定</p>

委員会名	認定・専門部会 (精神科領域)
委員 ◎：委員長	◎小林 聖子、池田 淳亮、小柳 康弘、佐藤 幸、提箸 尚貴、本柳 達也
R5年度 活動報告	<p>【委員会開催】全てZoomによるオンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆第1回2023年6月13日18:30～19:00（出席：委員6名、伊藤副会長） ◆第2回2023年7月7日18:00～18:30（出席：委員6名、伊藤副会長） ◆第3回2023年12月18日18:30～19:00（出席：委員6名） <p>会員向けの研修会や市民向けイベントの企画、共同研究の企画検討・進捗状況の確認を行った。</p> <p>【研修会開催】全てZoomによるオンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆第1回やまがた精神科薬物療法STEP UPセミナー（県病薬後援） <ul style="list-style-type: none"> ・主 催：エーザイ株式会社 ・日 時：2023年10月23日 18:20～20:00 ・プログラム：特別講演 『入院患者の不眠に対する超実践的アプローチ－せん妄リスク対策も含めて』 演 著者：新見公立大学健康科学部看護学科教授 井上真一郎 先生 ・視聴者：27名 ◆第2回やまがた精神科薬物療法STEP UPセミナー（県病薬共催） <ul style="list-style-type: none"> ・共 催：大塚製薬株式会社 ・日 時：2024年3月25日 18:30～20:00 ・プログラム①一般講演 『精神科薬物療法認定・専門薬剤師について』 演 著者：千歳篠田病院 小林 聖子 ・プログラム②特別講演 『抗CGRP関連薬登場後の片頭痛診療～精神疾患による頭痛も踏まえて～』 演 著者：日本海総合病院神経内科医長 鈴木 大介 先生 ・申込者：50名 <p>【市民向けイベント開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆出前実験授業おくすり教室（県病薬共催：イベントスタッフとして委員3名参加） <ul style="list-style-type: none"> ・主 催：NPO法人医薬品適正使用推進機構（以下、J-DO） ・日 時：2023年12月10日10:00～11:30 ・場 所：遊学館3階第3研修室 ・講 師：J-DO理事長 鍋島 俊隆 先生 ・参加者：小学3～6年生24名とその父兄 ◆シニア向け講演会「認知症にならないために」（県病薬共催：イベントスタッフとして委員3名参加） <ul style="list-style-type: none"> ・主 催：J-DO ・日 時：2023年12月10日13:00～14:30（15:00まで延長） ・場 所：遊学館3階第3研修室 ・講 師：J-DO理事長 鍋島俊隆先生 ・参加者：シニア30名 <p>【研 究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「山形県児童に対する出前おくすり教室授業の効果及びアンケート調査」 2023年12月10日に出前おくすり教室に参加した児童を対象にお薬に関するテストやアンケートを実施した。データは解析中である。 ◆「睡眠薬服用患者における睡眠の満足度と睡眠衛生に関する認知度の無記名アンケート調査」 本研究は多施設共同研究であり、各施設で倫理審査委員会に申請中である。

R6年度 活動計画	<p>【研修会の企画】</p> <p>年2回を目安とした会員向け研修会の企画を行う。</p> <p>◆第3回やまがた精神科薬物療法STEP UPセミナー 2024年7月に県病薬主催の現地集合型の研修会を企画する予定である</p> <p>◆第4回やまがた精神科薬物療法STEP UPセミナー 2025年1月に県病薬共催のオンライン方式の研修会を企画する予定である</p> <p>【研究・発表】</p> <p>◆「山形県児童に対する出前おくすり教室授業の効果及びアンケート調査」 学会等で発表予定</p> <p>◆「睡眠薬服用患者における睡眠の満足度と睡眠衛生に関する認知度の無記名アンケート調査」 全施設の倫理審査委員会で承認が得られ次第、研究を実施する。</p> <p>◆「山形県病薬学術委員会のサポートを受けた臨床研究活動」 2024年11月日本医療薬学会の学術委員会シンポジウムで当委員会が行う研究と山形県病薬の学術委員会との関わりを紹介する。</p>
--------------	--

委員会名	認定・専門部会 (周産期領域)																									
委員 ◎：委員長	◎畠山 史朗、植村奈緒瑠、遠藤 清香、小幡 瞳、唐沢 美砂、百瀬 里穂																									
R5年度活動報告	<p>委員会の活動目標を以下の通り設置し、その達成に向けて活動した。 「山形県の薬剤師へ周産期薬物療法を普及・啓発する」</p> <p>【委員会開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の日程で5回委員会を開催した。 <table> <tr><td>第1回</td><td>: 2023年7月20日</td><td>16:00 ~ 17:00</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>: 2023年8月30日</td><td>16:00 ~ 17:00</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>: 2023年10月3日</td><td>16:00 ~ 17:00</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>: 2023年11月8日</td><td>16:00 ~ 17:00</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>: 2024年2月15日</td><td>16:00 ~ 17:00</td></tr> </table> <p>【研修会開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の研修会を開催した。県内外より約40名の参加があった。 <p>令和5年度 山形県病院薬剤師会 第1回周産期薬物療法研修会</p> <p>会員報告 2題：</p> <ul style="list-style-type: none"> 畠山 史朗（山形大学医学部附属病院）、大沼 奈那（山形済生病院） <p>特別講演 1題</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩佐 千尋 先生（千葉県済生会習志野病院） <ul style="list-style-type: none"> 次年度の研修会開催計画を以下の通り策定した。 <table> <tr><td>第1回</td><td>: 妊娠・切迫早流産/妊婦・授乳婦専門薬剤師の役割</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>: 妊娠糖尿病/不妊治療・経口避妊薬</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>: 高血圧/喘息</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>: 新生児/甲状腺</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>: 精神疾患/カウンセリング</td></tr> </table> <p>【学会発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の通り学会発表を行った。 <p>畠山 史朗、植村奈緒瑠、遠藤 清香、武田 桐佳、東海林千裕、畠山 瑞季、百瀬 里穂、志田 敏宏：妊婦・授乳婦の服薬に関する医薬品情報提供およびカウンセリングにおける薬剤師の関与状況の調査。医療薬学フォーラム2023・第31回クリニカルファーマシーシンポジウム、山形：2023年7月</p> <p>【論文投稿】</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の通り論文投稿を行い、受理された。掲載は2024年4月予定。 <p>畠山 史朗、植村奈緒瑠、遠藤 清香、小幡 瞳、唐沢 美砂、武田 桐佳、東海林千裕、畠山 瑞季、百瀬 里穂、志田 敏宏：妊婦・授乳婦の服薬に関する医薬品情報提供およびカウンセリングにおける病院薬剤師の関与状況の調査。医療薬学。</p> <p>【広報・啓発活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の通り記事投稿を行った。 <p>畠山 史朗、植村奈緒瑠、遠藤 清香、小幡 瞳、唐沢 美砂、百瀬 里穂：山形県における安全・安心な周産期薬物療法の提供を目指して。県病薬やまがた広報誌.2023;34,33. 山形県病院薬剤師会55周年記念誌</p> <p>山形県病院薬剤師会 認定・専門部会（周産期領域）</p> <p>畠山 史朗、植村奈緒瑠、遠藤 清香、小幡 瞳、唐沢 美砂、百瀬 里穂</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の研修会で講演し、周産期薬物療法の啓発を行った。 <p>畠山 史朗：専門・認定制度について。令和5年度 山形県病院薬剤師会 新人研修会、山形；2023年9月</p> <p>【その他活動】</p> <p>妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の認定をサポートするプログラムの原案を作成した。次年度、資料を作成し、県病薬会員に広く通知を行うと共に、認定取得希望者へのサポートを開始する。</p>	第1回	: 2023年7月20日	16:00 ~ 17:00	第2回	: 2023年8月30日	16:00 ~ 17:00	第3回	: 2023年10月3日	16:00 ~ 17:00	第4回	: 2023年11月8日	16:00 ~ 17:00	第5回	: 2024年2月15日	16:00 ~ 17:00	第1回	: 妊娠・切迫早流産/妊婦・授乳婦専門薬剤師の役割	第2回	: 妊娠糖尿病/不妊治療・経口避妊薬	第3回	: 高血圧/喘息	第4回	: 新生児/甲状腺	第5回	: 精神疾患/カウンセリング
第1回	: 2023年7月20日	16:00 ~ 17:00																								
第2回	: 2023年8月30日	16:00 ~ 17:00																								
第3回	: 2023年10月3日	16:00 ~ 17:00																								
第4回	: 2023年11月8日	16:00 ~ 17:00																								
第5回	: 2024年2月15日	16:00 ~ 17:00																								
第1回	: 妊娠・切迫早流産/妊婦・授乳婦専門薬剤師の役割																									
第2回	: 妊娠糖尿病/不妊治療・経口避妊薬																									
第3回	: 高血圧/喘息																									
第4回	: 新生児/甲状腺																									
第5回	: 精神疾患/カウンセリング																									

R6年度 活動計画	<ul style="list-style-type: none">・活動目標：今年度同様に「山形県の薬剤師へ周産期薬物療法を普及・啓発する」を目標として掲げ、達成に向けて活動を行う。・研修：上記研修会開催計画に基づいて開催を行う。・学術：日本病院薬剤師会東北ブロック第13回学術大会で当部門より一般演題としてポスター発表を行う。 新たに研究計画を策定し、山形県内の周産期薬物療法における課題解決に向けて学術的アプローチを行う。・広報・啓発：県病薬やまがた広報誌へ部門より投稿を行う。内容は委員の施設における活動報告や、山形県内の周産期薬物療法に関する情報提供の現状について、を検討している。・その他 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の認定取得希望者へのサポートプログラムを開始する。会員から部門への連絡やアクセスを向上させるために、ホームページやLINE worksの整備を行う。
--------------	--

委員会名	認定・専門部会 (糖尿病関連領域)
委員 ◎：委員長	◎鎌田 敬志、八鍬 雅昭、小関 環、佐東 未咲、菅原しおり、青木 梢太

R5年度 活動報告	<p>会議 令和5年7月28日(金)第1回糖尿病関連領域部門Web会議(zoom開催) ・事業計画と企画検討など</p> <p>主催・共催 令和6年2月27日(火)18:30～20:00「令和5年度山形県病院薬剤師会 全セミナー 腎セミナー～未来への挑戦～」 令和6年3月26日(火)18:30～20:00「山形県病院薬剤師会 糖尿病関連領域部門Web 研修会 Diabetes Pharmacist Seminar in 山形」</p> <p>共催 令和6年1月30日(火)19:00～20:30 令和5年度山形県糖尿病療養指導・薬学研修会</p> <p>会議 令和6年3月22日(金)～29日(金)第2回糖尿病関連領域部門会議(紙面開催) ・事業報告と申し送り事項など</p>
R6年度 活動計画	<p>R6年度の研修会の事業は、集合もしくはWeb研修会の開催を企画 県内糖尿病研修会事業の協力 日本病院薬剤師会、日本薬剤師研修センター、薬剤師認定制度認証機構、各種関連の認定申請 腎臓病薬物療法の推進 腎臓病関連ライセンスを持っている薬剤師が、腎臓薬物療法部会の立ち上げを検討もしくは当部門に増員</p>

委員会名	U40特別委員会
委員 ◎：委員長	◎中村雄太郎、稻毛あづさ、青木 俊人、菅原しおり、松田圭一郎

R5年度 活動報告	<p>【委員会開催】 令和5年6月1日 U40特別委員会 第1回会議 令和5年6月27日 U40特別委員会 第2回会議 令和5年8月9日 U40特別委員会 第3回会議 令和5年9月28日 U40特別委員会 第4回会議 令和5年11月16日 U40特別委員会 第5回会議 令和5年12月12日 U40特別委員会 第6回会議 令和6年2月8日 U40特別委員会 第7回会議 令和6年2月21日 U40特別委員会 第8回会議</p> <p>【研修会】 第1回 1UP(オンライン交流会型研修会) テーマ：病棟業務・薬剤管理指導 日 時：令和6年2月29日(木)19:00～20:00 会 場：WEB開催</p>
R6年度 活動計画	<p>今年度は、短時間の会議を高頻度に行うことで、U40委員間の交流、密な意思疎通を行い、1UPというオンライン交流形式の研修会を行うことができた。反省点として、U40委員間の交流と比較し、多施設の中堅薬剤師をまきこんで活動を活発化させることはできず、1UPの参加者も少数にとどまってしまったことが挙げられる。</p> <p>来年度は引き続き会議を行いながら第1回1UPの反省点、改善点を協議し、テーマを変えながら2回程度の開催を目指して活動を行っていく。</p>

委員会名	病院薬剤師確保特別委員会
委員 ◎：委員長	◎羽太 光範、國井 健、鎌田 敬志、延川 正雄、赤尾 真
R5年度活動報告	<p>第1回病院薬剤師確保特別委員会開催（2023/6/23） 第2回病院薬剤師確保特別委員会開催（2024/2/8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院薬剤師確保に関する山形県との話し合い（2023/7/31） ・『山形県における病院薬剤師不足問題を語るシンポジウム』開催（2023/10/17） ・薬学部設置に係る要望書を山形県提出（2023/12/28） ・令和6年度薬剤師確保のための調査検討事業 本県採択（2023/3） ・山形県奨学金返還支援制度の利用推進
R6年度活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・第8次医療計画の実践 ・令和6年度薬剤師確保のための調査検討事業の実施 ・県病薬のホームページに県内病院の薬剤師募集状況を掲載 ・就活セミナー（大学生・既卒者向け）を実施 ・職業セミナー（中高生・市民向け）の実施 ・山形県奨学金返還支援制度の利用推進 ・病院薬剤師確保に向けた必要な調査の実施 ・病院薬剤師待遇改善に向けた取り組みの実践

委員会名	DX推進特別委員会
委員 ◎：委員長	◎羽太 光範、鏡 優貴、貴田 清孝、後藤 純一、草島 宏平、平 浩幸
R5年度活動報告	<p>第1回DX推進特別委員会開催（2023/6/26） 第2回DX推進特別委員会開催（2024/2/13）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『1st DX Challenge Seminar in YAMAGATA』開催（2023/11/30） ・『2nd DX Challenge Seminar in YAMAGATA』開催（2024/3/19） ・職場におけるDX実現のための施策の協議 各個人や組織のスキルを少しでも上げることができれば、後々の大きなレベルアップにつながっていく 本委員会の役割として、山形県下のDXに関わるレベルアップを推進していく役割と位置付ける 他施設での取り組み状況を知る機会を作る ハイレベルなものだけでなく、むしろ初歩的な内容の方が需要ある
R6年度活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・『DX Challenge Seminar in YAMAGATA』の継続開催 ・CHATGPTなど、新しい技術の可能性の探求 ・電子処方箋の進捗状況の確認

一般社団法人山形県病院薬剤師会 令和5年度活動決算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額
I 経常収益	
1. 受取会費	5,804,000
正会員受取会費	4,620,000
特別会員受取会費	156,000
準会員受取会費	48,000
賛助会員受取会費	980,000
2. 事業収益	994,300
研修会参加費	139,300
研修会共催費	435,000
広報誌広告費	420,000
3. 受取日病薬還付金	549,440
4. 受取寄付金	270,000
55周年記念式典寄付金（広告費）	270,000
5. その他収益	694,889
東北ブロック大会支援金返金	100,000
研修会認定申請費（県薬より）	3,300
利 息	614
その他の収益	60,975
55周年記念式典参加費	530,000
経常収益計	8,312,629
II 経常費用	
1. 事業費	
(1) 人件費	0
会務執行部賃金	0
人件費計	0
(2) その他経費	
旅費交通費	34,000
通信運搬費	0
会場費	138,875
研修会認定申請費	28,913
講師謝礼	30,000
雑 費	70,274
その他経費計	302,062
事業費計	302,062
2. 管理費	
(1) 人件費	
会務執行部賃金	159,461
人件費計	159,461
(2) その他経費	
旅費交通費	0
通信運搬費	0
会場費	6,000
広報誌作成費	1,111,605
日病薬負担金	3,240,417
東北病薬負担金	50,000
日病薬東北ブロック学術大会負担金	300,000
薬学会負担金	139,851
日赤社協力費	35,660
事務局費	709,027
雑 費	303,928
COML	30,000
薬事日報広告費	33,000
山新広告費	55,000
その他	185,928
55周年記念式典開催費	940,070
記念誌	0
その他経費計	6,836,558
管理費計	6,996,019
経常費用計	7,298,081
当期正味財産増減額	1,014,548
期首引継財産額	7,799,414
次期繰越正味財産額	8,813,962

令和6年度 一般社団法人山形県病院薬剤師会活動計画

1. 医療安全及び医薬品の適正使用に関する事項

本会のホームページやLINEWORKS等の手段により、タイムリーな情報発出に努めるとともに、医薬品安全管理に関する研修会の開催等を通じて、医療安全・医薬品適正使用に関連する情報やインシデント・アクシデント事例を共有することで、業務の安全水準を高めて持続的な県民の医療の質の確保に貢献する。

2. 薬剤師業務に係る情報の交換及び連絡、調査に関する事項

日常業務に役立つ取り組みや成功事例、解決できていない課題について、会員間で参考にしやすい環境を整えるとともに、必要であれば調査を施し、現状の把握と評価を行うとともに課題を改善していく。

3. 機関誌及び図書等の刊行並びに情報提供に関する事項

県病薬やまがた広報誌を発行し、各施設および会員の紹介を通じ、会員間の親近感を高めるとともに、日々の医薬品情報から本会の運営に関する内容まで、手に取って触れていただく価値ある広報誌を提供するとともに、会員にとって有用なホームページになるよう工夫を講じていく。SNSを活用した情報提供を推進する。

4. 生涯研修及び各種認定に関する事項

会員が広い領域の研鑽の機会を確保できるようサポートをする。入職後早期から生涯を通じた研鑽の重要性を理解できるよう、新任者に対する研修会を実施する。また、がん、緩和、感染制御、精神科、周産期、糖尿病関連領域を含む専門領域についても各種認定を取得できるよう可能な支援をしていく。

5. 学術大会、研修会等の開催及び協力に関する事項

本会主催の学術大会、山形県薬学会、日病薬東北ブロック学術大会の『3大会』において、会員が日常の成果を積極的に発表できるよう工夫していく。

日病薬病院薬学認定薬剤師制度の研修会実施機関として、魅力ある研修会の開催を心掛け、年間30本以上を設定する。

6. 行政機関及び関係諸団体との連携及び協力に関する事項

本県には当会も含めた薬業関連6団体で組織する『山形県薬事運営協議会』が存在し、本会議では山形県の担当者を交えて協議や意見交換を行っている。今後とも関係性を重視しながら、継続して目の前の課題解決に注力していく。

また、各自治体や関連団体との連携についても、固定概念にとらわれず大局観に立った協議や取り組みを実践していく。

7. 薬学教育の向上に関する事項

薬学生の病院実務実習について、山形県薬剤師会と協調しながら充実した実務実習になるように本会の当該委員会や病院・薬局実務実習東北地区調整機構を通じて進めていく。

8. 災害時における医薬品の確保及び応急活動に関する事項

薬事災害に関わる研修会を開催し、災害時における薬剤師の役割を広く認識することで、災害時の職能発揮に生かす。

9. 会員の職能の向上に関する事項

日常業務における多職種間のタスクシフティング・タスクシェアリングを検討及び推進していくなかで、潜在的な職能の可能性を探求し、未来的思考で議論していく。

10. 会員の地位向上及び待遇改善等に関する事項

現在の社会的地位の評価を認識し、職能を発揮した存在アピールと、相当の待遇改善について、その機会を捉えて行動していく。

11. 会員の相互扶助、相互親睦、福利厚生に関する事項

顔の見える相談しやすい会員間の交流をモットーに、様々な工夫を講じる。

12. 薬剤師不足の解決に関する事項

山形県下の多くの病院が抱える薬剤師不足を解消するため、山形県及び山形県薬剤師会と連携しながら、山形県における薬剤師の需給調査の実施や効果的な薬剤師確保策を推進する。

13. その他本会の目的を達成するのに必要な事項

公平かつ透明性のある会の運営に努め、必要な規程等を整備するとともに、それぞれの役割を正しく理解し、本会の目的達成のために、会員一丸となって活気あふれる活動が進められるよう組織運営を行う。

一般社団法人山形県病院薬剤師会 令和6年度活動予算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

(単位：円)

科 目	金額
I 経常収益	
1. 受取会費	5,804,000
正会員受取会費	4,620,000
特別会員受取会費	156,000
準会員受取会費	48,000
賛助会員受取会費	980,000
2. 事業収益	994,300
研修会参加費	139,300
研修会共催費	435,000
広報誌広告費	420,000
3. 受取日病薬還付金	550,800
4. 受取寄付金	0
5. その他収益	0
経常収益計	7,349,100
II 経常費用	
1. 事業費	
(1) 人件費	
会務執行部賃金	200,000
人件費計	200,000
(2) その他経費	
旅費交通費	140,000
会場費	200,000
研修会認定申請費	85,000
講師謝礼	120,000
雑 費	150,000
その他経費計	695,000
事業費計	895,000
2. 管理費	
(1) 人件費	
会務執行部賃金	250,000
人件費計	250,000
(2) その他経費	
旅費交通費	200,000
会場費	150,000
広報誌作成費	1,120,000
日病薬負担金	3,240,000
東北病薬負担金	50,000
日病薬東北ブロック学術大会負担金	200,000
薬学会負担金	150,000
日赤社協力費	35,660
事務局費	810,000
雑 費	248,440
55周年記念事業記念誌	1,000,000
その他経費計	7,204,100
管理費計	7,454,100
経常費用計	8,349,100
当期正味財産増減額	-1,000,000
期首引継財産額	8,813,962
次期繰越正味財産額	7,813,962

▼表彰（令和5年度一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会以降）

令和5年度日本病院薬剤師会功労賞

大石 玲児 先生（三友堂病院）

令和5年度保健衛生関係功労者山形県知事表彰（令和5年11月14日）

伊藤 秀悦 先生（篠田総合病院）

令和5年度薬事功労者山形県知事感謝状受賞（令和5年11月7日）

萬年 琢也 先生（山形県立新庄病院）

松田 隆史 先生（公立置賜総合病院）

令和5年度山形県病院薬剤師会感謝状

金子 俊幸 先生（公立置賜総合病院）

石山 ふみ 先生（山形県立河北病院）

鈴木 薫 先生（山形県立中央病院）

高梨 伸司 先生（山形県立新庄病院）

三須 栄治 先生（舟山病院）

荒井 浩一 先生（山形市立病院済生館）

菊地 正人 先生（寒河江市立病院）

藤村 晃 先生（南さがえ病院）

海老名 勇 先生（舟山病院）

清野 由利 先生（鶴岡市立荘内病院）

佐藤 賢 先生（日本海総合病院）

西村孝一郎 先生（山形市立病院済生館）

萬年 琢也 先生（山形県立新庄病院）

松田 隆史 先生（公立置賜総合病院）

令和6年度永年会員（25年）表彰

斎藤 尚子 先生（鶴岡協立病院）

相馬 直記 先生（三友堂病院）

結城 智博 先生（最上病院）

第3回山形県病院薬剤師会学術大会（令和5年12月3日）

◎優秀発表賞

石川 大介 先生（日本海総合病院 勤務）

「外来化学療法時間短縮への取り組み」

令和5年度優秀論文賞

◎最優秀論文賞

志田 敏宏 先生（山形大学医学部附属病院）

Cost-Effectiveness Analysis of Cyclin-Dependent Kinase 4 / 6 Inhibitor Palbociclib for Inoperable or Recurrent Breast Cancer.

◎優秀論文賞

菅原 拓也 先生（山形市立病院済生館）

吸入指導用吸気流速測定器をIn-Checkから

In-Check DIALに切り替える際の留意点

◎優秀論文賞

豊田 優 先生（山形大学医学部附属病院）

一包化調剤鑑査における錠剤鑑査支援システムの時間短縮効果

令和5年度 一般社団法人山形県病院薬剤師会役員 (30名)

会長

山口 浩明	山形大学医学部附属病院	山形エリア
-------	-------------	-------

副会長 (3名)

伊藤 秀悦	医療法人篠田好生会・篠田総合病院	山形エリア
渡邊 茂	米沢市立病院	置賜エリア
松田圭一郎	山形市立病院済生館	山形エリア

理事 (24名)

阿部 桂子	山形県・酒田市病院機構日本海総合病院	庄内エリア*
鎌田 敬志	鶴岡市立荘内病院	庄内エリア
大川 賢明	医療法人徳洲会・庄内余目病院	庄内エリア
萬年 琢也	山形県立新庄病院	最上エリア*
小林 由佳	山形県立新庄病院	最上エリア
八鍬 雅昭	寒河江市立病院	村山エリア*
國井 健	北村山公立病院	村山エリア
長岡 一郎	山形県立河北病院	村山エリア
芦野 均	山形県立中央病院	山形エリア*
金野 昇	山形大学医学部附属病院	山形エリア
志田 敏宏	山形大学医学部附属病院	山形エリア
小倉 次郎	山形大学医学部附属病院	山形エリア
畠山 史朗	山形大学医学部附属病院	山形エリア
羽太 光範	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
板垣 有紀	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
石山 晶子	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
中村雄太郎	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
延川 正雄	山形市立病院済生館	山形エリア
市川 勇貴	医療法人篠田好生会・篠田総合病院	山形エリア
小林 聖子	医療法人篠田好生会・千歳篠田病院	山形エリア
水口 真知	公立高畠病院	置賜エリア*
松田 隆史	公立置賜総合病院	置賜エリア
相馬 直記	一般財団法人三友堂病院・三友堂リハビリテーションセンター	置賜エリア
赤尾 真	米沢市立病院	置賜エリア

* : エリアマネージャー

監事 (2名)

大石 玲児	一般財団法人三友堂病院
芦埜 和幸	公立学校共済組合・東北中央病院

令和6年度 一般社団法人山形県病院薬剤師会役員 (32名)

会長

山口 浩明	山形大学医学部附属病院	山形エリア
-------	-------------	-------

副会長 (3名)

伊藤 秀悦	医療法人篠田好生会・篠田総合病院	山形エリア
渡邊 茂	米沢市立病院	置賜エリア
松田圭一郎	山形市立病院済生館	山形エリア

理事 (26名)

阿部 桂子	山形県・酒田市病院機構日本海総合病院	庄内エリア*
鎌田 敬志	鶴岡市立荘内病院	庄内エリア
大川 賢明	医療法人徳洲会・庄内余目病院	庄内エリア
庄司 喜恵	山形県立新庄病院	最上エリア*
小林 由佳	山形県立新庄病院	最上エリア
八鍬 雅昭	寒河江市立病院	村山エリア*
國井 健	北村山公立病院	村山エリア
高橋 和枝	山形県立河北病院	村山エリア
芦野 均	山形県立中央病院	山形エリア*
大熊 良和	山形県立中央病院	山形エリア
金野 昇	公立学校共済組合・東北中央病院	山形エリア
志田 敏宏	山形大学医学部附属病院	山形エリア
小倉 次郎	山形大学医学部附属病院	山形エリア
佐藤 一真	山形大学医学部附属病院	山形エリア
羽太 光範	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
板垣 有紀	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
石山 晶子	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
遠藤 清香	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
中村雄太郎	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
延川 正雄	山形市立病院済生館	山形エリア
市川 勇貴	医療法人篠田好生会・篠田総合病院	山形エリア
小林 聖子	医療法人篠田好生会・千歳篠田病院	山形エリア
水口 真知	公立高畠病院	置賜エリア*
倉本美紀子	公立置賜総合病院	置賜エリア
相馬 直記	一般財団法人三友堂病院	置賜エリア
赤尾 真	米沢市立病院	置賜エリア

* : エリアマネージャー

監事 (2名)

大石 玲児	一般財団法人三友堂病院
芦埜 和幸	医療法人財団明理会・山形ロイヤル病院

一般社団法人山形県病院薬剤師会 会員名簿

令和6年9月30日現在

正会員

〈庄内エリア〉

氏名 出身大学・卒業年 氏名 出身大学・卒業年

山形県酒田市病院機構 日本海酒田リハビリテーション病院 〒998-0843 酒田市千石町2丁目3番20号 TEL 0234-23-1111 (114床)

菅原 優子 東北薬大 H7 百瀬 里穂 東北医薬大 H30

医療法人 順仁堂遊佐病院 〒999-8301 鮑海郡遊佐町遊佐字石田7番地 TEL 0234-72-2522 (88床)

佐藤 忠男 東北薬大 S40 佐藤 素子 北医大 H7

医療法人 酒田東病院 〒998-0878 酒田市こあら3丁目5番2号 TEL 0234-22-9611 (120床)

吉岡 美佳 東北薬大 H9 静岡県大(修)H11

医療法人山容会 山容病院 〒998-0074 酒田市浜松町1番7号 TEL 0234-33-3355 (220床)

原田 英一 東薬大 H6

山形県酒田市病院機構 日本海総合病院 〒998-0828 酒田市あきほ町30番地 TEL 0234-26-2001 (630床)

阿部 桂子	新潟薬大 H3	草島 宏平	明薬大 H21 明薬大(修)H23
阿部 美佐緒	東北薬大 S62	岡田 うらら	東北大 H24
成田 康之	昭薬大 H1	古木 俊也	東北薬大 H25
五十嵐 徹	金沢大 H3	伊藤 雅人	東北薬大 H26
茂木 佳子	東日本大 H3	菅原 しおり	新潟薬大 H26
柏谷 法子	東北薬大 H6	武田 健史	新潟薬大 H29
足達 昌博	東北薬大 H7	加賀 真樹	東北医薬大 H30
成田 さと子	東北薬大 H8	河口 尚史	東薬大 H30
伊藤 文俊	昭薬大 H3	本間 美久子	新潟薬大 H30
小竹 美穂	新潟薬大 H13	佐藤 花奈	東北医薬大 H30
高橋 美香	道薬大 H11 星薬大(修)H15	田村 朋香	東北医薬大 R2
佐藤 ゆかり	東北大 H13	渡邊 太貴	新潟薬大 R2
白幡 雅章	北里大 S57	小野寺 一誠	千葉科学大 R3
佐藤 萌子	明薬大 H20 明薬大(修)H22	阿部 麻梨恵	東北医薬大 R4
今井 法子	明薬大 H21	佐藤 賢	富山医薬大 S60
佐藤 遼	岐阜薬大 H21		
山本 桂	国医療大 H22		

氏名 出身大学・卒業年 氏名 出身大学・卒業年

医療法人健友会 本間病院 〒998-0044 酒田市中町3丁目5番23号 TEL 0234-22-2556 (158床)

高橋 真己 東北薬大 S63	川崎 芙季子 横薬大 H25
池田 広子 東北薬大 H17	庄司 紫音 青森大 R5
石川 し乃 共立薬大 H17	渋谷 幸悦 城西国大 R2
大沼 あゆみ 東理大 H20	

医療法人徳洲会 庄内余目病院 〒999-7781 東田川郡庄内町松陽1丁目1番1号 TEL 0234-43-3434 (324床)

大川 賢明 東北薬大 S62	船山 裕和 青森大 H21
加藤 八重 富山医薬大 H10 富山医薬大(修)H12	岡部 加奈 東北薬大 H24
岡部 麻衣子 道薬大 H18	矢島 弘基 城西大 R3
荒井 泰雄 北医大 H20	

庄内医療生活協同組合 鶴岡協立病院 〒997-0816 鶴岡市文園町9番地34号 TEL 0235-23-6060 (236床)

斎藤 尚子 東北薬大 H8	渡部 千波 北陸大 H27
佐藤 貴大 東北薬大 H16	

鶴岡市立荘内病院 〒997-8515 鶴岡市泉町4番20号 TEL 0235-26-5111 (521床)

鎌田 敬志 東北薬大 S63	荒井 真智子 北医大 H20
五十嵐 昌美 昭和大 H7	植村 奈緒瑠 奥羽大 H28
富樫 敦子 富山医薬大 H9	大池 裕貴 東北薬大 H27
田中 康庸 昭薬大 H9	渡部 秀 横薬大 H30
田中 大輔 日大 H8	松田 千佳 北陸大 H24
坂田 奈緒美 昭薬大 H14 昭薬大(修)H16	佐藤 純 東北医薬大 H30
佐藤 拓也 道薬大 H18	清野 秀喜 新潟薬大 R4
高橋 直子 東北薬大 H21	後藤 詩帆 明薬大 R6
五十嵐 康郎 金沢大 H18 金沢大(修)H20	今泉 友臣 新潟薬大 R4
吉田 謙 東北薬大 H25	

山形県立こころの医療センター 〒997-8510 鶴岡市北茅原町13-1 TEL 0235-64-8100 (213床)

阿部 広美 北医大 H7	佐藤 幸 東北大 H9
神山 慶子 千葉大 H11	

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院 〒997-0752 鶴岡市湯田川字中田35番地10号 TEL 0235-38-5151 (120床)

渡部 弘 城西大 S54	清野 由利 東北薬大 S60
--------------	----------------

〈最上エリア〉

氏名 出身大学・卒業年 氏名 出身大学・卒業年

医療法人徳洲会 新庄徳洲会病院 〒996-0041 新庄市大字鳥越字駒場4623番地 TEL 0233-23-3434 (270床)

中嶋知英 北陸大 H19 榎 静香 北医大 H24

最上町立最上病院 〒999-6101 最上郡最上町大字向町64番地3号 TEL 0233-43-2112 (60床)

結城智博 道薬大 H9

山形県立新庄病院 〒996-8585 新庄市金沢720番地の1 TEL 0233-22-5525 (406床)

庄 司 喜 恵 昭薬大 H2	東海林 千 裕 岩手医大 H29
小 林 由 佳 東薬大 H8	後 藤 夢 東北医薬大 R3
内 海 浩 東北薬大 H3 山形大(博)H29	鈴 木 大 雅 国医療大 R4
石 山 靖 奨 星薬大 H10	高 梨 野 乃 東北医薬大 R5
京 谷 香 菜 城西大 H24	齊 藤 和 真 東北医薬大 R6
大 泉 崇 崇 日大 H24	岸 真雪子 東北医薬大 R6
丹 野 智 範 東北薬大 H25	原 田 莉 沙 新潟薬大 R3

医療法人社団清明会 PFCHOSPITAL 〒996-0053 新庄市大字福田806番地 TEL 0233-22-2047 (180床)

田澤義江 東北薬大 H3

〈村山エリア〉

氏名 出身大学・卒業年 氏名 出身大学・卒業年

朝日町立病院 〒990-1442 西村山郡朝日町大字宮宿843番地 TEL 0237-67-2125 (50床)

庄田聰美 千葉大 H12 西村孝一郎 東北薬大 S60

尾花沢市中央診療所 〒999-4224 尾花沢市新町3丁目2番20号 TEL 0237-23-2010

服部貴 東北薬大 S62

医療法人敬愛会 尾花沢病院 〒999-4222 尾花沢市大字臘気695番地3号 TEL 0237-23-3637 (152床)

武田拓也 道薬大 H10

北村山公立病院 〒999-3702 東根市温泉町2丁目15番1号 TEL 0237-42-2111 (380床)

國 井 健 道薬大 S63	工 藤 由 起 帝京大 H20 東北大(修)H22
押 切 佳代子 東北薬大 H3	川 井 隆太郎 東北薬大 H26
服 部 豊 東北薬大 H1	押 切 渉 千葉科学大 H28
大 類 あかね 東北薬大 H9	畠 山 隼 東北医薬大 R1
平 浩 幸 北陸大 H15	村 形 紗 英 東北医薬大 R2
齊 藤 麻衣子 第一薬大 H13	仲 嶋 祐 希 城西大 R4
植 松 聰 志 北陸大 H19	管 辰 敦 東北医薬大 R4

氏名 出身大学・卒業年 氏名 出身大学・卒業年

寒河江市立病院 〒991-8508 寒河江市大字寒河江字塩水80番地 TEL 0237-86-7774 (98床)

八 鍬 雅 昭 東北薬大 S63 中 村 悠 香 東北薬大 H19

田 中 久 美 東北薬大 H3 小 嶋 文 良 東北大 S56 東北大(修)S58

医療法人風心堂 小原病院 〒999-3511 西村山郡河北町谷地月山堂151番地1号 TEL 0237-72-7811 (176床)

徳 永 ひとみ 東邦大 S60

西川町立病院 〒990-0702 西村山郡西川町海味581番地 TEL 0237-74-2211 (43床)

佐 竹 公 子 日大 H9 高 橋 彰次郎 東北薬大 H25

医療法人篠田好生会 天童温泉篠田病院 〒994-0024 天童市鎌田1丁目7番1号 TEL 023-653-5711 (120床)

鈴 木 純 一 明薬大 H6 小 松 弘 東北薬大 H28

半 田 貢 康 東北薬大 H3

天童市民病院 〒994-0047 天童市駅西5丁目2番1号 TEL 023-654-2511 (84床)

管 祐 司 東北薬大 S63 星 野 淳 東北薬大 H3

山形県立河北病院 〒999-3511 西村山郡河北町谷地字月山堂111番地 TEL 0237-73-3131 (136床)

高 橋 和 枝 明薬大 H3 海 藤 真理子 富山大 H15 東北大(修)H17

齋 藤 正 子 東北薬大 H7 奥 山 俊 介 東薬大 H17

後 藤 恵 子 東北大 H8 佐 竹 周 平 北医大 R2

医療法人財団明理会 山形ロイヤル病院 〒999-3712 東根市大森2丁目3番6号 TEL 0237-43-8080 (322床)

芦 整 和 幸 東北薬大 S57 佐 藤 秀 樹 東北薬大 S53

柴 田 竜 希 青森大 H20 阿 部 里 子 日薬大 H20

医療法人社団丹心会 吉岡病院 〒994-0026 天童市東本町3丁目5番21号 TEL 023-654-1188 (126床)

高 橋 功 子 日大 H7

〈山形エリア〉

氏 名

出身大学・卒業年

氏 名

出身大学・卒業年

医療法人社団 小白川至誠堂病院 〒990-0034 山形市東原町1丁目12番26号 TEL 023-641-6075 (148床)

廣瀬 諭 日大 H11

医療法人社団みゆき会 みゆき会病院 〒999-3161 上山市弁天2丁目2番11号 TEL 023-672-8282 (183床)

丘 龍祥 東北薬大 H4	青木一真 東北薬大 H24
吉田滋穂 道薬大 H11 道薬大(修)H13	芦立昌文 北陸大 H25
金子敦子 東北薬大 H24	太田七恵 東北大 H23 東北大(修)H25
高橋尚史 日大 H29	

医療法人社団松柏会 至誠堂総合病院 〒990-0045 山形市桜町7番地44号 TEL 023-622-7181 (230床)

工藤浩幸 北陸大 S57	丹野杏子 東北薬大 H26
齊藤信之 東北薬大 H12	杉本莉利子 東北薬大 H27
山田千尋 奥羽大 H25	

医療法人篠田好生会 篠田総合病院 〒990-0045 山形市桜町2番地68号 TEL 023-623-1711 (386床)

伊藤秀悦 日大 H1	佐藤令菜 いわき大 H25
市川勇貴 東北薬大 H18 東北薬大(修)H20	渡邊広大 東北医薬大 R1
笛原大司 第一薬大 H16	森谷雄介 東北医薬大 R3
和智麻唯子 東北薬大 H21	

医療法人篠田好生会 千歳篠田病院 〒990-0811 山形市長町2丁目10番56号 TEL 023-684-5331 (300床)

鈴木聖子 東北薬大 H11	原宏子 東北薬大 H27
小林聖子 富山大 H20	

医療法人東北医療福祉会 山形厚生病院 〒990-2362 山形市大字菅沢字鬼越255番地 TEL 023-645-8118 (312床)

田辺雄一 東北薬大 H11

公立学校共済組合 東北中央病院 〒990-0064 山形市和合町3丁目2番5号 TEL 023-623-5111 (252床)

金野昇 東北薬大 H15 東北薬大(修)H17	海和飒 東北医薬大 R1
大澤千鶴子 東北薬大 H1	木村公美 国医療大 R1
宮崎衛江 東北薬大 H4	伊藤聰美 岩手医大 R2
大熊理子 奥羽大 H21	中澤郁美 武蔵野大 R4
小林武志 東北薬大 H19 東北大(修)H21	横川玲雄 新潟薬大 R4
黒田晋平 青森大 H26	中川尚 城西大 R5

社会医療法人二本松会 かみのやま病院 〒999-3103 上山市金谷字下河原1370番地 TEL 023-672-2551 (426床)

高梨由紀 第一薬大 H7 柏利育 摂南大 H13

氏 名

出身大学・卒業年

氏 名

出身大学・卒業年

医療法人二本松会 山形さくら町病院 〒990-0045 山形市桜町2番地75号 TEL 023-631-2315 (339床)

齋 藤 寛 東北薬大 H10
 永 井 瑛 恵 福山大 H20
 鈴 木 創 第一薬大 H19

小 林 厚 子 東北薬大 S54
 三 浦 幸 恵 道薬大 H16

山形県立中央病院 〒990-2292 山形市青柳1800番地 TEL 023-685-2626 (609床)

芦 野 均 東北薬大 S63
 小 野 裕 紀 東北大 H7 東北大(修)H9
 小田部 友 恵 東北大 H10
 田 村 敦 子 東北薬大 H5
 斎 藤 智 美 明薬大 H8
 渡 辺 祐 太 東北薬大 H28
 小 関 環 東北大 H12
 遠 藤 尚 美 東北大 H14 東北大(修)H16
 寺 崎 敦 子 東北大 H15 東北大(修)H17
 後 藤 真 吾 いわき大 H28
 大 荒 熊 良 和 奥羽大 H22
 川 麻 美 東北薬大 H21
 斎 藤 博 子 国医療大 H24
 高 木 栄 美 子 新潟薬大 H28
 桶 口 安 耶 国医療大 H25
 石 川 千 寻 明薬大 H26

小 山 帰 譲 城西大 H26
 山 田 浩 貴 東北医薬大 H29
 武 田 桐 佳 東北医薬大 H29
 尾 田 形 菜里子 東北医薬大 H30
 上 林 愛 新潟薬大 R1
 石 澤 輔 東北医薬大 R1
 朝 倉 香 東北医薬大 R2
 横 沢 紀 新潟薬大 R2
 石 名 坂 彦 東北医薬大 R3
 阿 部 竜 織 奥羽大 R3
 鈴 木 蘭 明薬大 R1
 東 海 林 瞳 東北医薬大 R2
 櫻 井 はるか 武藏野大 R5
 佐 藤 沙 紀 東北医薬大 R6
 主 田 貴 明 東北薬大 R5
 佐 藤 怜 未 東北薬大 R6

社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院 〒990-8545 山形市沖町79番地1号 TEL 023-682-1111 (459床)

羽 太 光 範 東北薬大 S63
 西 村 雅 次 東北薬大 H3
 板 垣 有 紀 東北薬大 H5
 石 垣 俊 樹 帝京大 H12
 石 山 晶 子 東北薬大 H16
 渋 江 泉 泉 東北薬大 H1
 真 木 秀 子 千葉大 H14 千葉大(修)H16
 遠 藤 清 香 東北薬大 H17
 中 村 雄 太 郎 東北薬大 H21
 本 田 貴 朗 東薬大 H21
 吉 田 崇 志 東北薬大 H24
 佐 藤 智 也 東理大 H17
 清 水 美 保 東北薬大 H25
 菅 野 澄 佳 昭薬大 H25
 廣 川 太 土 朗 明薬大 H25
 田 口 未 菜 東北薬大 H25
 佐 藤 清 貴 東北薬大 H28
 高 橋 優 歩 国医療大 H29

今 遠 田 良 汐 樹 東北医薬大 H30
 遠 佐 藤 梨 東北医薬大 H30
 佐 山 奈 美 東北医療大 R1
 大 下 場 哲 紅 昭和大 H27
 山 大 口 有 紗 東北医薬大 R3
 渋 泉 可 正 奈 東北医療大 R3
 真 木 林 那 達 東北医薬大 R3
 遠 藤 岩 仁 拳 星薬大 H25
 中 村 岩 那 達 東北医薬大 R1
 本 田 岩 那 達 東北医薬大 R4
 吉 田 岩 那 達 東北医薬大 R4
 佐 藤 岩 那 達 東北医薬大 R4
 清 水 岩 那 達 東北医薬大 R4
 菅 野 岩 那 達 東北医薬大 R4
 廣 川 岩 那 達 医療創生大 R4
 田 口 岩 那 達 明薬大 R5
 佐 藤 岩 那 達 新潟薬大 R3
 高 橋 岩 那 達 城西国大 R5
 橋 優 歩 瑞 夏 東北医薬大 R6

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
山形市立病院 済生館	〒990-8533 山形市七日町1丁目3番26号	TEL 023-625-5555	(528床)
松田 圭一郎	東北薬大 H4	荒井 潤	東北薬大 H27
矢吹 むつみ	東北薬大 S62	五十嵐 綾乃	東北医薬大 H30
延川 正雄	東北薬大 H9	志田 幸平	静岡県大 H28 静岡県大(修)H30
加川 美由紀	東北大 H12	岡田 美桜	東北医薬大 R3
菅原 拓也	北陸大 H14	田中 沙織	東北医薬大 R3
斎藤 順	新潟薬大 H16	設楽 里恵	東北薬大 H26
有川 真理	北陸大 H16	杉本 拓哉	東北薬大 H27
関口 徳志	明薬大 H15	海谷 志保	東北医薬大 R4
後藤 純一	東北薬大 H20	舟生 佳奈子	東北医薬大 R4
森岡 亜耶	東北薬大 H24	渡邊倫子	東北医薬大 R5
佐東 未咲	東北薬大 H24	柏倉 廉吾	奥羽大 R6
鈴木 麻友	東北薬大 H26		

山口 浩明	東北大 H11 京都大(博)H16	鹿嶋 美杜	東北医薬大 R2
小倉 次郎	北大 H18 北大(修)H20	白井 英和	東北大 R2
志田 敏宏	東北薬大 H15 東北薬大(修)H17	小松 彩可	星薬大 R2
金子 基子	東北薬大 H17 東北大(修)H19	岸承俊	岩手医大 R3
横枕 史史	星薬大 H15 東北大(修)H17	提箸 尚貴	東薬大 H29 山形大(博)R3
高橋 信明	東北薬大 S63	三浦伸晃	東北医薬大 R3
佐藤 一真	東北薬大 H25	山口 亜耶子	東北大 H18 東北大(修)H21
須藤 将裕	道薬大 H24 山形大(博)R3	西村 卓眞	岩手医大 R4
稻毛 あづさ	岩手医大 H27	山本 セリーナ	東北医薬大 R4
鏡優貴	東北薬大 H28	木村 恵子	岩手医大 R5
安部 圭紀	日大 H26	松田 一将	昭薬大 R6
田中 聰一郎	横薬大 H25	八鍬 那名子	東理大 R6
安藤 智七美	東北医薬大 H30	中鳶 太郎	山東理薬大 R6
今橋 良太	奥羽大 H30	古澤 南実	東北医薬大 R6
佐藤 友香子	昭薬大 H30	海老原 光孝	東北大 S58 東北大(修)S60
土屋 沙恵	東北医薬大 H30		

独立行政法人国立病院機構 山形病院	〒990-0876 山形市行才126番地2号	TEL 023-684-5566	(300床)
三上 祥博	東北薬大 H4	早川 奏子	東北医薬大 R3
佐藤 和洋	東北薬大 H3 東北薬大(修)H5	伊藤 宥加	東北医薬大 R3
工藤 慎也	昭和大 H21		

医療法人公徳会 若宮病院	〒990-2451 山形市吉原2丁目15番3号	TEL 023-643-8222	(113床)
小柳 康弘	昭薬大 H11 昭薬大(修)H13		

氏名 出身大学・卒業年 氏名 出身大学・卒業年

医療法人徳洲会 山形徳洲会病院 〒990-0834 山形市清住町2丁目3番51号 TEL 023-647-3407 (292床)

太田 香	東理大 H15	大宮 圭典	星薬大 H20
熊谷 紗綾	東北薬大 H24	小久保 和樹	東北医薬大 R1

医療法人社団清永会 矢吹病院 〒990-0885 山形市嶋北4丁目5番5号 TEL 023-682-8566 (124床)

有川宗平	日大 H16	石垣みどり	東北薬大 H16
加藤容子	昭薬大 H9		

〈置賜エリア〉

氏名 出身大学・卒業年 氏名 出身大学・卒業年

公立置賜総合病院 〒992-0601 東置賜郡川西町大字西大塚2000番地 TEL 0238-46-5000 (496床)

倉本美紀子	東北薬大 H2	後藤咲紀	東北薬大 H28
川井美紀	新潟薬大 H6	渡邊大輔	奥羽大 H30
安部一弥	城西大 H16	畠山瑞季	東北医薬大 R1
小島俊彦	城西大 H17 城西大(修)H19	唐沢美砂	日薬大 R2
青木梢太	東北薬大 H24	松村聰大	東北医薬大 R3
太田拓希	岐阜薬大 H25	中野里菜	東北医薬大 R6
会田俊	東薬大 H28		

公立置賜長井病院 〒993-0002 長井市屋城町2番1号 TEL 0238-84-2161 (50床)

横澤大輔	昭薬大 H17	岩瀬希美	国医療大 R2
------	---------	------	---------

公立置賜南陽病院 〒992-0472 南陽市宮内1204番地 TEL 0238-47-3000 (50床)

泉妻宏治	東北薬大 S63	安部優子	東北薬大 H15
------	----------	------	----------

医療法人社団緑愛会 川西湖山病院 〒999-0145 東置賜郡川西町大字下奥田3796番地20号 TEL 0238-54-2100 (109床)

山岸靖彰	帝京大 H8 筑波大(修)H11
------	------------------

社会医療法人公徳会 佐藤病院 〒999-2221 南陽市門塚948番地1号 TEL 0238-40-3170 (316床)

近野直子	新潟薬大 R2
------	---------

一般財団法人 三友堂病院 〒992-0033 米沢市福田町2丁目1-55 TEL 0238-24-3700 (199床)

相馬直記	東北薬大 H10	永井佑未子	国医療大 H29
香坂和子	東邦大 S54	江口弘晃	第一薬大 H18
中村新	東北薬大 H21	大石玲児	日大 S63

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
公立高畠病院	〒992-0351 東置賜郡高畠町大字高畠386番地	TEL 0238-52-5070	(130床)
水口真知	東北薬大 H5	阿部秀平	東北薬大 H26
入間弓佳	東北薬大 H16	泉妻颯士	東北医薬大 R4
特定医療法人 舟山病院 〒992-0027 米沢市駅前2丁目4番8号 TEL 0238-23-4435 (194床)			
海老名勇	新潟薬大 S59	岩崎京子	東北薬大 S53
渡辺暁子	東北薬大 S54 山形大(修)H22	鬼満知弥	奥羽大 R3
米沢市立病院 〒992-8502 米沢市相生町6番地36号 TEL 0238-22-2450 (322床)			
渡邊茂	東北薬大 S63	青木俊人	北陸大 H25
永井聰	昭和大 H1	金子恵美	東北薬大 H27
田中治子	東北薬大 H3	日黒俊幸	東大 H2 東大(修)H4
安達健一	東北薬大 H3	塙洋史	東北医薬大 R2
松田尚子	東北薬大 H5	上杉有里奈	東北医薬大 R6
貴田清孝	北医大 H10 北医大(修)H12	嶋貫詞	東北医薬大 R5
赤尾眞	北陸大 H17		
公徳会 米沢こころの病院 〒932-0119 米沢市アルカディア1丁目808番32 TEL 0238-27-0506 (114床)			
齋藤玄一	東北薬大 H4	本柳達也	明薬大 H24
独立行政法人国立病院機構 米沢病院 〒992-1202 米沢市大字三沢26100番1号 TEL 0238-22-3210 (220床)			
後藤興治	東北薬大 H7 東北薬大(修)H9	川村麻由子	道薬大 H15
千葉慧	岩手医大 H28		
小国町立病院 〒999-1356 西置賜郡小国町大字あけばの1丁目1番地 TEL 0238-61-1111 (50床)			
長坂幸広	東北薬大 S63	堺和幸	第一薬大 H14
白鷹町立病院 〒992-0831 西置賜郡白鷹町大字荒砥甲501番地 TEL 0238-85-2155 (60床)			
熊谷岳仁	北医大 H16	海老名純子	新潟薬大 S58

特別会員

氏名 出身大学・卒業年

あおば薬局 〒998-0857 酒田市若浜町5番地1号 TEL 0234-43-1951

福島 雅幸 日大 H11

山形県庄内保健所 〒997-1392 東田川郡三川町大字横山字袖東19番地1号 TEL 0235-66-5664

五十嵐 有里 東北薬大 H7

株式会社マルタケ 庄内営業所 〒997-1321 東田川郡三川町押切新田字足子90番地 TEL 0235-68-2113

庄司知摩 城西大 S56

有限会社メディカほし薬局 新庄店 〒996-0035 新庄市鉄砲町3番地1号 TEL 0233-28-8693

星利佳 東北薬大 H13

有限会社メディカほし薬局 新庄店 〒996-0035 新庄市鉄砲町3番地1号 TEL 0233-28-8693

大滝善樹 東薬大 H14

有限会社メディカほし薬局 新庄店 〒996-0035 新庄市鉄砲町3番地1号 TEL 0233-28-8693

石川大介 東理大 H18

おいのもり調剤薬局 〒994-0013 天童市老野森1丁目5番29号 TEL 023-656-8535

加藤淳 東北薬大 H6

緑町Kokoro薬局 〒990-0041 山形市緑町4-14-63 TEL 023-679-5890

岡寄千賀子 北大 S63

ファーベス薬局うわまち 〒990-2483 山形市上町3-11-6 TEL 023-646-2293

土田昌子 星薬大 H6

あさひ薬局 〒999-2241 南陽市郡山877番地3号 TEL 0238-43-2861

小方祥光 東北薬大 H11

かすが薬局 〒992-0044 米沢市春日2-3-51 TEL 0238-37-9110

保坂知恵 明薬大 H29

氏名 出身大学・卒業年

なないろ薬局 〒992-0601 東田川郡川西町西大塚1446-10 TEL 0238-27-7716

長谷川 隆太 城西国大 H20

AIN薬局 南陽店 〒999-2221 南陽市門塚1177 TEL 0238-50-0165

鈴木孝典 東邦大 H21

準会員

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
遠藤祐喜	東薬大 H25	薄羽八重	金沢大 H7 金沢大(修)H9
堀絵理	東北薬大 H26	永井孝尚	九保大 H20
海上恵理子	東北薬大 H15	高橋美和子	金沢大 H11
永井基瑛	静岡県立大 H26	高井啓一	東薬大 H20
筒井有子	北医大 H11 北医大(修)H13	佐伯和毅	大薬大 H9 大薬大(修)H11
志田伸子	東北薬大 H13	坂本歩美	東北医薬大 R2
佐藤剛実	帝京大 H4		

その他

氏名 出身大学・卒業年

白石正 東北薬大 S52

名誉会長・名誉会員・有功会員・顧問

名誉会長

白 石 正 東北薬大 S52

名誉会員

星 盛	次 次	東北薬大 S32
田 中	章 章	東北薬大 S37
伊 藤 照	代 代	東北薬大 S36
高 梨 正	晴 晴	東北薬大 S38
細 矢 政	男 男	東北薬大 S38
鈴 木 一	男 男	東北薬大 S39
竹 田 洋	子 子	東北薬大 S38
後 藤 利	行 行	東薬大 S42
遠 藤 智	也 也	東薬大 S44
東 海 林 徹	徹 役	東北薬大 S49
兼 子 紀	子 子	星薬大 S45
島 津 憲	憲 一	日大 S46

庄 司 好	子 子	北里大 S46
小 笠 原 威 威	東北薬大 S50	
鈴 木 啓 啓	明薬大 S52	
武 田 亨 亨	昭和大 S49	
佐 藤 秀 樹	東北薬大 S53	
岩 瀬 滉 和	東日本大 S55	
大 本 間 俊 幸	東北薬大 S53	
和 田 幸 治	北大 S53	
豊 口 稔 子	東日本大 S55	
荒 井 浩 一	東北大 S51	
	新潟薬大 S59	

有功会員

細 谷 順 東北大 S57

顧 問

齋 藤 栄 治 日大 S61

一般社団法人山形県病院薬剤師会 賛助会員名簿

(五十音順)

旭化成ファーマ株式会社	テルモ株式会社
あすか製薬株式会社	東邦薬品株式会社
アストラゼネカ株式会社	東北アルフレッサ株式会社
エーザイ株式会社	東和薬品株式会社
岡崎医療株式会社	トーアエイヨー株式会社
小野薬品工業株式会社	鳥居薬品株式会社
キッセイ薬品工業株式会社	株式会社日医工山形
協和キリン株式会社	日医工株式会社
クラシエ薬品株式会社	日新薬品株式会社
健栄製薬株式会社	ニプロ株式会社
コーラルセイ株式会社	日本化薬株式会社
サノフィ株式会社	日本血液製剤機構
参天製薬株式会社	日本ケミファ株式会社
JCRファーマ株式会社	日本新薬
株式会社ジェイ・エム・エス	日本ベーリングガーインゲルハイム株式会社
塙野義製薬株式会社	ノボノルディスクファーマ株式会社
株式会社シバタインテック	株式会社バイタルネット
株式会社スズケン	久光製薬株式会社
住友ファーマ	扶桑薬品工業株式会社
ゼリア新薬株式会社	株式会社マルタケ
第一三共株式会社	マルホ株式会社
大正製薬株式会社	Meiji Seika ファルマ株式会社
大鵬薬品工業株式会社	持田製薬株式会社
武田薬品工業株式会社	
田辺三菱製薬株式会社	
株式会社トーショー	
株式会社ツムラ	
帝人ヘルスケア株式会社	

一般社団法人山形県病院薬剤師会 定款

令和3年3月11日 作 成
令和3年5月21日 変 更

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、一般社団法人山形県病院薬剤師会と称する。

(事務所)

第2条 本会は、主たる事務所を山形県山形市に置く。

2 本会は、理事会の決議によって、従たる事務所を設置することができる。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は、一般社団法人日本病院薬剤師会との連携のもと、山形県内の病院、診療所、介護保険施設に勤務する薬剤師の倫理及び学術水準を高め、質の高い薬物療法の確保を図ることにより、山形県民の健康及び福祉の増進に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 医療安全及び医薬品の適正使用に関する事項
- (2) 薬剤師業務に係る情報の交換及び連絡、調査に関する事項
- (3) 機関誌及び図書等の刊行並びに情報提供に関する事項
- (4) 生涯研修及び各種認定に関する事項
- (5) 学術大会、研修会等の開催及び協力に関する事項
- (6) 行政機関及び関係諸団体との連携及び協力に関する事項
- (7) 薬学教育の向上に関する事項
- (8) 災害時における医薬品の確保及び応急活動に関する事項
- (9) 会員の職能の向上に関する事項
- (10) 会員の地位向上及び待遇改善等に関する事項
- (11) 会員の相互扶助、相互親睦、福利厚生に関する事項
- (12) その他本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

(会員資格)

第5条 本会の会員は次の通りとする。

- (1) 正会員は、山形県内の病院、診療所、介護保険施設に籍を有し、本会の目的及び事業に賛同する薬剤師
- (2) 特別会員は、本会の目的及び事業に賛同する正会員以外の薬剤師
- (3) 賛助会員は、本会の目的及び事業に賛同し、事業を支援する団体又は個人
- (4) 名誉会員は、本会に特に顕著な功績のあった者で、理事会の推薦と総会の同意を経た者

- (5) 有功会員は、本会に功労のあった者で、理事会の推薦と総会の同意を経た者
- 2 正会員及び特別会員は一般社団法人 日本病院薬剤師会の会員である者とする。
- 3 名誉会員及び有功会員は終身に渡って委嘱することとする。
- 4 前1項第1号の正会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律48号、以下「法人法」という）上の社員とする。

(手続き及び任意退会)

- 第6条 本会に入会しようとする者は、会長に所定の届出をしなければならない。
- 2 会員で退会しようとする者は、会長に所定の届出をすることにより、任意にいつでも退会する事ができる。
 - 3 会員でその届出事項に変更を生じた場合は、前2項と同様に、その届出をしなければならない。

(会費等)

- 第7条 正会員、特別会員及び賛助会員は本会所定の会費及び負担金を支払う義務を負う。
- 2 名誉会員及び有功会員は会費の納入を要しない。
 - 3 会費の額及び負担金並びに徴収方法は総会で定める。
 - 4 既納の会費及び負担金は理由の如何を問わずこれを返還しない。

(会員資格の喪失)

- 第8条 第6条及び第9条の場合のほか、会員が次の各号の一に該当するときはその資格を喪失する。
- (1) 死亡したとき及び失踪宣告を受けたとき
 - (2) 成年被後見人又は被保佐人になったとき
 - (3) 賛助会員資格が消滅又は死亡したとき
 - (4) 正会員、特別会員及び賛助会員が正当な理由なくして会費の納入を怠り且つ催告に応じないとき
 - (5) 正会員もしくは特別会員が、一般社団法人 日本病院薬剤師会の会員の身分を失ったとき

(除名)

- 第9条 会員に本会の名誉を毀損し又は本会の目的趣旨に反するような行為があったときは、総会の決議を経て除名することができる。ただし、総会は議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

(会員資格喪失に伴う権利及び義務)

- 第10条 会員が第6条第2項、第8条及び第9条の規定によりその資格を喪失したときは、本会に対する権利を失い、義務を免れる。ただし、既に発生した未履行の義務は、これを免れることができない。

(正会員の権利)

- 第11条 正会員は、法人法に規定された次に掲げる権利を本会に対して行使することができる。
- (1) 法人法第14条第2項の権利（定款の閲覧等）
 - (2) 法人法第32条第2項の権利（社員名簿の閲覧等）
 - (3) 法人法第57条第4項の権利（社員総会の議事録の閲覧等）
 - (4) 法人法第50条第6項の権利（社員の代理権証明書面等の閲覧等）
 - (5) 法人法第51条第4項及び第52条第5項の権利（議決権行使書面の閲覧等）
 - (6) 法人法第129条第3項の権利（計算書類等の閲覧等）
 - (7) 法人法第229条第2項の権利（清算法人の貸借対照表等の閲覧等）

- (8) 法人法第246条第3項、第250条第3項及び第256条第3項の権利（合併契約等の閲覧等）
2 理事又は監事は、その任務を怠ったときは、本会に対し、これによって生じた損害を賠償する責任を負い、法人法第112条の規定にかかわらず、この責任はすべての正会員の同意がなければ免除することができない。

第4章 役員等

(役員の種類及び定数)

第12条 本会に次の役員を置く。

- (1) 理事25名以上30名以内
 - (2) 監事2名以内
- 2 理事のうち、1名を会長、3名以内を副会長とする。
3 会長をもって法人法上の代表理事とし、副会長をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

(理事の職務・権限)

第13条 会長は法令及び定款の定めにより本会を代表し、業務を執行する。

- 2 副会長は会長を補佐し、業務を執行する。
- 3 理事は理事会を構成し、職務を執行する。

(監事の職務・権限)

第14条 監事は、次の各号に規定する職務を行う。

- (1) 理事の職務執行を監査する。
- (2) 本会の業務並びに財産及び会計の状況を監査する。
- (3) 総会及び理事会に出席し、必要があると認めるときは意見を述べる。
- (4) 理事が不正の行為をし、若しくはその行為をするおそれがあると認めるとき、又は法令若しくは定款に違反する事実若しくは著しく不当な事実があると認めるときは、これを理事会に報告しなければならない。
- (5) 前号の報告をするため必要があるときは、会長に理事会の招集を請求する。ただし、その請求があった日から5日以内に、2週間以内の日を理事会とする招集通知が発せられない場合は、直接理事会を招集することができる。
- (6) 理事が総会に提出しようとする議案、書類その他法令で定めるものを調査し、法令若しくは定款に違反し、又は著しく不当な事項があると認めるときは、その調査の結果を総会に報告する。
- (7) 理事が本会の目的の範囲外の行為その他法令若しくは定款に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、その行為によって本会に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、その理事に対し、その行為をやめることを請求することができる。
- (8) その他監事に認められた法令上の権限を行使する。

(役員の選任)

第15条 理事及び監事は、総会で選任する。

- 2 会長、副会長は理事会で選定する。
- 3 理事及び監事は、相互にこれを兼ねることができない。
- 4 各理事について、その理事及び配偶者又は三親等以内の親族等である理事の合計数が、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても、同様とする。

5 役員に異動があったときは、2週間以内に登記しなければならない。

(役員等の任期)

第16条 役員の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会の終結の時までとする。ただし再任を妨げない。

2 欠員として補充された役員の任期は前任者の残任期間とする。

3 役員は第12条に定める定数を下回る場合には、任期満了又は辞任により退任した後も後任者が就任するまではその権利義務を有する。

(役員等の解任)

第17条 理事及び監事は総会の決議により、解任することができる。

2 会長、副会長は、理事会の決議により解職することができる。

(取引の制限)

第18条 理事が次に掲げる取引をしようとする場合は、その取引について重要な事実を開示し、理事会の承認を得なければならない。

(1) 自己又は第三者のためにする本会の事業の部類に属する取引

(2) 自己又は第三者のためにする本会との取引

(3) 本会がその理事の債務を保証することその他理事以外の者との間における本会とその理事との利益が相反する取引

2 前項の取引をした理事は、その取引の重要な事実を遅滞なく、理事会に報告しなければならない。

(役員等の報酬)

第19条 役員等には、その職務執行の対価として、報酬の支給や費用を弁償することができる。

2 前項の支給や弁償の基準は、総会において定める。

(名誉会長及び顧問)

第20条 本会に名誉会長及び顧問をおくことができる。名誉会長及び顧問は法人法上の役員に該当しない。

2 名誉会長は本会に特に顕著な功績のあった会長のうちから理事会の推薦と総会の同意を経て会長が委嘱し、その任期は終身とする。

3 名誉会長は会務を行わない。

4 顧問は理事会の承認を経て会長が委嘱し、その任期は委嘱した会長の在任期間とする。

5 顧問は会の運営に関し、会長のもとめに応じ、隨時意見を述べることができる。

6 名誉会長及び顧問は無報酬とする。

第5章 総 会

(構成等)

第21条 総会は、すべての正会員をもって構成する。

2 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

3 総会を法人法上の社員総会とする。

4 総会は通常総会及び臨時総会とする。

5 通常総会を法人法上の定時社員総会とする。

(開催、招集)

第22条 通常総会は、毎事業年度終了後3か月以内に開催する。ただし、やむを得ない事情のある時

は理事会の決議を経て変更することができる。

2 臨時総会は次の各号の一に該当する場合に開催する。

(1) 理事会が必要あると認めたとき

(2) 正会員の議決権の5分の1以上より会議の目的を記載した書面により開催の請求があったとき

3 総会は理事会の決議に基づき会長が招集する。

4 会長は第2項第2号による請求があったときは、すみやかに臨時総会を招集しなければならない。

5 総会の招集は、開会の1週間前までに開会の日時及び場所並びに会議の目的である事項その他法令で定める事項を記載した通知を正会員に送付することで行う。

(権限)

第23条 総会は次に掲げる事項及び法人法に定める事項を決議する。

(1) 事業計画及び予算の承認

(2) 事業報告及び計算書類の承認

(3) 理事及び監事の選任及び解任

(4) 理事及び監事の報酬等の額及びその支給基準

(5) 役員の責任の免除

(6) 名誉会員、名誉会長の選任

(7) 会員の除名

(8) 定款の変更

(9) 合併に関する事項

(10) 解散に関する事項

(11) 理事会が付議した事項

(12) その他この定款に定められた事項

2 前項の規定にかかわらず、個々の総会においてはあらかじめ目的として通知された事項以外の事項は決議を行うことができない。

(会議の成立)

第24条 総会は正会員数の過半数が出席しなければ開会することができない。

2 総会に出席できない正会員は、委任状その他代理権を証明する書面を本会に提出して、代理人（他の正会員に限る）にその議決権を代理行使させることができる。この場合、当該総会に出席したものとみなす。

3 名誉会長、顧問、名誉会員は総会に出席することができる。ただし、議決権は有しない。

(議長)

第25条 総会の議長、副議長は総会ごとに正会員の中から選出する。

(決議)

第26条 総会の決議は、正会員の過半数が出席し、出席正会員の過半数により行う。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事項の決議は、正会員の半数以上でかつ総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

(1) 監事の解任

(2) 会員の除名

(3) 定款の変更

- (4) 合併に関する事項
- (5) 解散に関する事項
- (6) その他法令で定められた事項

(決議の省略)

第27条 理事又は正会員が総会の目的である事項につき提案した場合において、正会員の全員が提案された議案につき書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その議案を可決する総会の決議があつたものとみなす。

(議事録)

第28条 総会の議事については法令に基づき議事録を作成しなければならない。

- 2 議事録には議長、副議長及び議長が指名した出席正会員2名が記名押印をしなければならない。

第6章 理 事 会

(構 成)

第29条 本会に理事会を置く。

- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。
- 3 監事は、理事会に出席して意見を述べることができる。

(開催、招集)

第30条 理事会は次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めた場合
 - (2) 会長以外の理事から会議の目的を記載した書面により開催の請求があったとき
 - (3) 前号の請求があった日から5日以内に、その日から2週間以内の日を理事会の日とする招集の通知が発せられない場合に、その請求をした理事が招集したとき
 - (4) 第14条第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき、又は監事が招集したとき
- 2 理事会は、会長が招集する。ただし、前項第3号により理事が招集する場合及び前項第4号により監事が招集する場合を除く。
- 3 会長は、第1項第2号又は第4号の規定による請求があったときは、その請求のあった日から2週間以内に理事会を招集しなければならない。この期間が経過しても招集されないときは、各理事又は監事が理事会を招集することができる。
- 4 理事会の招集は、1週間前までに開会の日時及び場所並びに会議の目的である事項を通知することを行ふ。
- 5 前項の規定にかかわらず、理事及び監事の全員の同意があるときは、理事会は招集手続を経ることなく開催することができる。

(権 限)

第31条 理事会は次に掲げる事項及び法人法に定める職務を行う。

- (1) 本会の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長、副会長の選定及び解職
- (4) その他重要な会務の決定

(会議の成立)

第32条 理事会は議決に加わることができる理事総数の過半数が出席しなければ開会することができ

ない。

(議長)

第33条 理事会の議長は会長とする。ただし、会長が欠けたとき又は会長に事故あるときは出席理事の中から選出する。

(決議)

第34条 理事会の決議は、出席理事の過半数により行う。ただし、その決議に特別の利害関係を有する理事は、決議に加わることができない。

(決議の省略)

第35条 理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、理事の全員が提案した議案につき書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その議案を可決する理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事がその提案に異議を述べたときはこの限りではない。

(議事録)

第36条 理事会の議事については法令に基づき議事録を作成しなければならない。

2 議事録には出席した会長及び監事が記名押印をしなければならない。

第7章 諮問機関

(会議の種類)

第37条 本会に諮問機関として常務理事会を置く。

2 常務理事会は総会及び理事会の権限を侵すものではないものとする。

(常務理事会)

第38条 常務理事会は会長、副会長をもって組織する。

2 常務理事会は会長、副会長の過半数の出席がなければ開会することができない。

3 常務理事会は理事会より委任された事項及び会長が理事会に付議する事項を協議し、理事会に報告を行う。

4 常務理事会は会長が必要な場合に招集して、その議長となる。

第8章 委員会および部会

(構成)

第39条 理事会の補助機関として委員会および部会を置くことができる。

2 委員会及び部会は総会及び理事会の権限を侵すものではないものとする。

3 委員会及び部会に委員を置くことができる。

4 委員は理事会の承認を経て会長が委嘱する。

5 委員会及び部会に関して必要な事項は別に定める。

第9章 財産および会計

(財産の種別)

第40条 本会の財産は、基本財産及びその他の財産の2種類とする。

2 基本財産は、本会の目的である事業を行うために不可欠な財産として理事会で定めたものとする。

3 その他の財産は、基本財産以外の財産とする。

(基本財産の維持及び処分)

第41条 基本財産は、本会の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。

2 やむを得ない理由により基本財産の一部を処分又は基本財産から除外しようとするときは、理事会の決議を得なければならない。

(財産の管理および運用)

第42条 本会の財産の管理及び運用は、会長が行うものとし、その方法は、理事会の決議により別に定める。

(事業年度)

第43条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(剰余金)

第44条 本会は、剰余金の分配を行うことができない。

(会計原則)

第45条 本会の会計は、一般に公正妥当と認められる会計の慣行に従うものとする。

2 本会の財産の管理及び会計処理に関し必要な事項は理事会で定める。

(事業計画及び予算)

第46条 事業計画及び予算は、毎事業年度開始前に理事会の決議を経て、総会の承認を受けなければならぬ。

(事業報告及び決算)

第47条 事業報告及び計算書類（賃貸対照表、損益計算書（正味財産増減計算書））は、毎事業年度経過後3ヶ月以内に、監事の監査を受け、理事会の決議を経て、総会の承認を受けなければならない。

第10章 事務局

(事務局の設置)

第48条 本会の事務を処理するために事務局を設置する。

- 2 事務局に職員を置くことができる。
- 3 重要な職員は会長が理事会の承認を得て任免する。
- 4 事務局の運営に関し必要な事項は会長が別に定める。

第11章 定款の変更及び解散等

(定款変更)

第49条 この定款は総会の決議によって変更することができる。

(合併等)

第50条 本会は、総会において、正会員数の半数以上であつて、正会員の議決権の三分の二以上の決議により、他の法人法上の法人との合併、事業の全部又は一部の譲渡をすることができる。

(解散)

第51条 本会は総会の決議による他法令で定められた事由により解散する。

(清算)

第52条 本会が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49号）第5条第17号に掲げる法人又は国若

しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第12章 雜 則

(公告方法)

第53条 本会の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

(細 則)

第54条 この定款に定めるものの他、本会の運営に必要な事項、理事会の決議により別に定める。

(法令の準拠)

第55条 本定款に定めのない事項は、すべて一般法人法その他の法令に従う。

薬剤管理指導、こんなお悩みありませんか？

- 薬剤師の経験やスキルに左右される
- 内容が複雑で時間がかかる
- 監査が不安
- 指導件数を増やしたい

お悩みは
メディカラボの自動文章作成機能で解決！

薬剤管理指導システム



株式会社アイシーエム
www.i-c-m.com
〒105-0012
東京都港区芝大門2-5-5 住友芝大門ビル11F
TEL 050-1741-7594 sales@i-c-m.com



世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献する

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。



第一三共株式会社

錠剤一包化鑑査支援システム

MDM Core

鑑査速度
90 包/分

鑑査対応薬品
錠剤・カプセル・半錠・
1/4錠・透通性のある薬を
処方内容と照合

印字分包紙
でも
鑑査可能

高速&高精度な画像解析で、分包ミスと鑑査業務の削減をサポート。

POINT 01 簡単操作・画像鑑査

データベース内に登録してある薬品画像マスターと照合。
処方データを元に数量・形状・サイズ・色調が正しいかを解析します。

POINT 02 調剤の記録・画像の保管

分包機で包装した日時・患者さま氏名・処方内容・撮影画像をログとして記録し保管します。

POINT 03 人と機械のダブルチェック

一包化した薬品が処方データや薬品データと一致しない場合、問題箇所をアラームでお知らせします。



※運用によって異なる場合がございます。※製品改良のため仕様・構成などを予告なく変更させていただく場合がございます。※掲載内容は2024年10月9日現在のものです。

機器・システム構成から動線を考慮したレイアウトまで、トータルでご提案いたします。お気軽にお問い合わせください。

TOSHO
Your best pharmacy solution

株式会社トーショー
本社 〒144-0033 東京都大田区東糀谷3-8-8

■お問合せ先 9:00~17:00(平日)
TEL (03) 3745-1331(代)

トーショー公式サイト
<https://www.tosho.cc/>



NISSIN

信頼できる 明日のためのジェネリック医薬品

2023年9月作成

持続性AT1レセプターブロッカー
アジルサルタン口腔内崩壊錠

アジルサルタンOD錠10mg「日新」

アジルサルタンOD錠20mg「日新」

アジルサルタンOD錠40mg「日新」

処方箋医薬品 薬価基準収載

注意－医師等の処方箋により使用すること



- ◆ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については電子添文をご参照下さい。
- ◆ 製品詳細情報などご不明な点がございましたら、弊社MRもしくは下記までお問い合わせ下さい。

【製造販売元】

白新製薬株式会社

〒994-0069

山形県天童市清池東2丁目3番1号
TEL 023-655-2131 FAX 023-655-3419

【発売元】

白新薬品株式会社

〒994-0001

山形県天童市万代3番6-2号
TEL 023-658-6116 FAX 023-658-6118

製品情報お問い合わせ先：白新製薬株式会社 安全管理部 E-mail : d-info@yg-nissin.co.jp

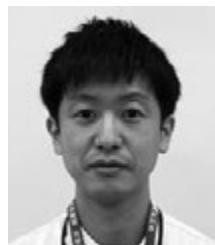
ホームページに、電子添文、IF、製品写真、コード一覧等を掲載しております。 <https://www.yg-nissin.co.jp/>

白新製薬

検索

AZL-05-01

一般社団法人 山形県病院薬剤師会 広報委員会



山 形 済 生 病 院	板 垣 有 紀	023(682)1111
日 本 海 総 合 病 院	佐 藤 ゆかり	0234(26)2001
鶴 岡 市 立 莊 內 病 院	佐 藤 拓 也	0235(26)5111
山形大学医学部附属病院	佐 藤 一 真	023(633)1122
山形市立病院済生館	有 川 真 理	023(625)5555
公 立 置 賦 総 合 病 院	川 井 美 紀	0238(46)5000

令和7年1月20日発行

発 行 人 山口 浩明

発 行 所 一般社団法人 山形県病院薬剤師会

〒990-9585 山形市飯田西二丁目2番2号

山形大学医学部附属病院 薬剤部内

電話 023(628)5830

印 刷 株式会社大風印刷

山形市蔵王松ヶ丘1-2-6

電話 023(689)1111